

令和4年度
高知医療学院 理学療法学科
授業科目要綱

SYLLABUS

令和4年度 授業科目要綱

総目次

令和4年度 年間行事予定表

1 学年

授業科目・単位数一覧・担当講師一覧

分野別資料

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

2 学年

授業科目・単位数一覧・担当講師一覧

分野別資料

専門基礎分野

専門分野

3 学年

3 学年 授業科目・単位数一覧・担当講師一覧

分野別資料

専門基礎分野

専門分野

令和4年度 年間行事予定表

令和4年

期	月	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5	6	7
前期	4月	3	4	5	6	7	8	9
		10	11	12	13	14	15	16
		17	18	19	20	21	22	23
		24	25	26	27	28	29	30
		1	2	3	4	5	6	7
前期	5月	8	9	10	11	12	13	14
		15	16	17	18	19	20	21
		22	23	24	25	26	27	28
		29	30	31				
					1	2	3	4
前期	6月	5	6	7	8	9	10	11
		12	13	14	15	16	17	18
		19	20	21	22	23	24	25
		26	27	28	29	30		
							1	2
前期	7月	3	4	5	6	7	8	9
		10	11	12	13	14	15	16
		17	18	19	20	21	22	23
		24/31	25	26	27	28	29	30
							1	2
前期	8月	7	8	9	10	11	12	13
		14	15	16	17	18	19	20
		21	22	23	24	25	26	27
		28	29	30	31			
						1	2	3
前期	9月	4	5	6	7	8	9	10
		11	12	13	14	15	16	17
		18	19	20	21	22	23	24
		25	26	27	28	29	30	
後期	10月	2	3	4	5	6	7	8
		9	10	11	12	13	14	15
		16	17	18	19	20	22	22
		23	24	25	26	27	28	29
		30	31					
	11月	6	7	8	9	10	11	12
		13	14	15	16	17	18	19
		20	21	22	23	24	25	26
		28	29	30				
						1	2	3
	12月	4	5	6	7	8	9	10
		11	12	13	14	15	16	17
		18	19	20	21	22	23	24
		25	26	27	28	29	30	31
	1月	1	2	3	4	5	6	7
		8	9	10	11	12	13	14
		15	16	17	18	19	20	21
		22	23	24	25	26	27	28
		29	30	31				
2月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28					
3月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31		

令和5年

4月 1日 (金) 2, 3学年新学期開始
4月 1日 (金) 入学式・新入生オリエンテーション
4月 中旬 健康診断
4月 下旬 卒業研究提出
5月 9日 (月) 3学年第Ⅰ期臨床実習開始
7月 1日 (金) 3学年第Ⅰ期臨床実習終了
7月 下旬～1, 2学年前期単位認定試験
7月 19日 (火) 3学年第Ⅱ期臨床実習開始
8月 5日 (金) 1, 2学年前期単位認定試験結果発表
8月 5日 (金) ～1・2学年前期再試験対策期間
8月 15日 (月) ～1・2学年前期再試験
8月 8日 (月) ～1・2学年夏休み
9月 5日 (月) 1・2学年集中講義期間開始
9月 9日 (金) 3学年第Ⅱ期臨床実習終了
9月 12日 (月) ～9月16日(金) 2学年臨床評価実習Ⅰ
9月 12日 (月) 3学年実習後評価・就職対策期間開始
9月 15日 (木) 推薦入学試験A
9月 22日 (木) 3学年就職説明会
10月 3日 (月) 全学年後期授業開始
10月 15日 (土) 推薦入学試験B
11月 下旬 秋季レクリエーション
12月 17日 (土) 推薦入学試験C
12月 26日 (月) 1・2年生冬休み開始
12月 30日 (金) 3年生冬休み開始
1月 4日 (水) 3学年授業再開
1月 5日 (木) 1・2学年授業再開
1月 下旬～1, 2学年後期単位認定試験
1月 21日 (土) 一般入学試験A
2月 10日 (金) ～2月24日(金) 2学年臨床評価実習Ⅱ
2月 10日 (金) 卒業認定会議
2月 16日 (木)～1学年後期単位認定試験結果発表
2月 16日 (木)～1学年後期再試験対策期間
2月 18日 (土) 一般入学試験B
2月 19日 (日) 第58回理学療法士国家試験(予測)
2月 20日 (月)～1学年後期再試験
2月 25日 (土)～2学年後期単位認定試験結果発表
2月 25日 (土)～2学年後期再試験対策期間
2月 28日 (火)～2学年後期再試験
3月 3日 (金) セイリング(予定)
3月 4日 (土) 第43回卒業式(予定)
3月 7日 (火) 進級認定会議
3月 8日 (水) 進級者発表
3月 9日 (木) 1学年春休み開始
3月 13日 (月) 2学年春休み開始
3月 中旬 第44回実習指導者会議
3月 17日 (金) 一般入学試験C

1 学年 授業科目要綱

令和4年度 1学年・授業科目・単位数・担当者一覧

分野 指定規則単位	科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基礎	身体哲学概論	1	15	1					宮本 省三	専任講師	
		脳科学概論	1	15		1				明神 茉倫子	専任講師	
		スポーツ科学概論	1	15	1					八坂 一彦・他	専任講師・他	
		医学用語	1	15	1					小野 美紀	専任講師	
		医学英語	1	15		1				小野 美紀	専任講師	
		情報科学演習	1	30	1					大畑 剛・他	非常勤講師	
	人間と生活	発達心理学	1	15		1				宮本 省三・他	専任講師・他	
		運動心理学	1	15	1					宮本 省三・他	専任講師・他	
		人間発達学	1	15		1				山口 一郎	非常勤講師	
		日常生活動作概論	1	15		1				小野 美紀・他	専任講師・他	
		保健体育	1	30		1				刈谷 三郎	非常勤講師	
	社会の理解	社会福祉学	1	15	1					稲垣 佳代	非常勤講師	
		コミュニケーション概論	1	15	1					小野 美紀・他	専任講師・他	
		社会活動概論	1	15	1					園田 義頭・他	専任講師・他	
計	14		14	240	8	6	0	0	0	0		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	1	30	1					高橋 弘	非常勤講師
			解剖学Ⅱ	1	30		1				高橋 弘	非常勤講師
			解剖学Ⅲ	1	30	1					田中 健二郎	非常勤講師
			解剖学Ⅳ	1	30		1				田中 健二郎	非常勤講師
		生理学	生理学Ⅰ	1	30	1					有川 幹彦	非常勤講師
			生理学Ⅱ	1	30		1				村田 芳博	非常勤講師
			生理学Ⅲ	1	30			1				
			生理学Ⅳ	1	30				1			
		運動学	運動学Ⅰ	1	30	1					園田 義頭	専任講師
			運動学Ⅱ	1	30		1				宮本 省三	専任講師
			運動学Ⅲ	1	30			1				
			運動学Ⅳ	1	30			1				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1	30		1					大原 栄二・他	非常勤講師
		リハビリテーション内科学	1	30				1				
		リハビリテーション整形外科	1	30			1					
		リハビリテーション神経学	1	45				1				
		リハビリテーション栄養・薬理学	1	15			1					
		救命救急医学・リスク管理学	1	15				1				
		臨床データ診断学	1	15					1			
		精神医学	1	30				1				
		老年病学	1	30				1				
		運動発達学	1	15	1						宮本 省三	専任講師
		解剖学演習	1	30	1						田淵 充勇	専任講師
		生理学演習	1	30			1					
解剖生理学演習	1	30		1					明神 茉倫子・高橋 弘	専任講師・他		
運動学演習	1	30				1						
医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション概論	1	30	1						八坂 一彦	専任講師	
	リハビリテーション医学	1	30		1					小野 美紀	専任講師	
	社会保障論	1	15					1				
	チーム医療概論	1	15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他	
計	30		30	825	8	7	7	6	1	1		

分野 指定規則単位	科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法評価概論	1	30	1					明神 茉倫子	専任講師
		運動療法概論	1	45		1				田淵 充勇	専任講師
		物理療法概論	1	30		1				八坂 一彦	専任講師
		理学療法基礎セミナーⅠ	1	30				1			
		理学療法基礎セミナーⅡ	1	45						1	
		理学療法基礎セミナーⅢ	1	45						1	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30		1				田淵 充勇	専任講師
		理学療法評価学Ⅱ	1	45		1				明神 茉倫子	専任講師
		理学療法評価学Ⅲ	1	30		1				園田 義顕	専任講師
		理学療法評価学Ⅳ	1	30			1				
		理学療法評価学Ⅴ	1	30				1			
		理学療法評価学演習	1	30				1			
	理学療法	理学療法管理学	1	15						1	
		理学療法教育学	1	15						1	
	理学療法治療学	関節機能障害理学療法学	1	30			1				
		一般外傷理学療法学	1	30			1				
		スポーツ外傷理学療法学	1	30					1		
		障害者スポーツ学	1	30		1					八坂 一彦・他
		末梢神経障害理学療法学	1	30				1			
		脊髄障害理学療法学	1	30				1			
		脳障害理学療法学Ⅰ	1	30			1				
		脳障害理学療法学Ⅱ	1	30				1			
		脳障害理学療法学Ⅲ	1	30				1			
		小児理学療法学	1	30				1			
		呼吸器障害理学療法学	1	30			1				
		循環器障害理学療法学	1	30			1				
		物理療法学	1	30			1				
		義肢学	1	30					1		
		装具学	1	30			1				
		日常生活動作学	1	30			1				
		運動療法技術学	1	30				1			
		認知神経リハビリテーション学	1	30				1			
		理学療法治療学セミナー	1	45						1	
理学療法研究法	1	30						1			
地域理学療法学	地域リハビリテーション学Ⅰ	1	30			1					
	地域リハビリテーション学Ⅱ	1	30					1			
	生活環境論	1	30					1			
臨床実習	臨床見学実習	1	45		1					宮本 省三	専任講師
	臨床評価実習Ⅰ	1	45			1					
	臨床評価実習Ⅱ	2	90				2				
	総合臨床実習	15	675					15			
	地域見学実習	1	45					1			
計	57		57	2055	1	7	11	16	16	6	
合計	101		101	3120	17	20	18	22	17	7	
3120時間					37単位		40単位		24単位		
					945時間		1230時間		945時間		
					101単位 3120時間						

基礎分野

目次

科学的思考の基礎

身体哲学概論	・ ・ ・ ・ ・	1-①
脳科学概論	・ ・ ・ ・ ・	1-②
スポーツ科学概論	・ ・ ・ ・ ・	1-③
医学用語	・ ・ ・ ・ ・	1-④
医学英語	・ ・ ・ ・ ・	1-⑤
情報科学演習	・ ・ ・ ・ ・	1-⑥

人間と生活

発達心理学	・ ・ ・ ・ ・	1-⑦
運動心理学	・ ・ ・ ・ ・	1-⑧
人間発達学	・ ・ ・ ・ ・	1-⑨
日常生活動作概論	・ ・ ・ ・ ・	1-⑩
保健体育	・ ・ ・ ・ ・	1-⑪

社会の理解

社会福祉学	・ ・ ・ ・ ・	1-⑫
コミュニケーション概論	・ ・ ・ ・ ・	1-⑬
社会活動論	・ ・ ・ ・ ・	1-⑭

科目名	身体哲学概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 人間の身体についての哲学、心理学、認知心理学、神経科学、脳科学、芸術とリハビリテーション医療の関連性を探求する。それによって患者の「生きる身体」の意義性を理解する。			
[授業内容] 1. リハビリテーション身体論総論 2. 身体と哲学 3. メルロ＝ポンティの身体論 4. ベイトソンの情報性について 5. ギブソンのアフォーダンス理論 6. ヴァレラのオートポイエーシス			
[教科書] 人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書] リハビリテーション身体論 青土社 脳のなかの身体 講談社新書			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. レポート			

科目名	脳科学概論	学年・学期	1学年・後期
担当講師	明神 茉倫子	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
脳科学の基本について学習する。			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳の構造（大脳、小脳、脳幹） 2. 脳の構造（ブロードマン、ペンフィールドを中心に） 3. 脳と感覚 4. 脳と運動 5. 脳損傷に伴う各種症状（運動・感覚障害、高次脳機能障害など）の概略 			
[教科書]			
配布資料			
[参考図書]			
<p>人間の運動学（協同医書出版）</p> <p>ぜんぶわかる 脳の事典（成美堂出版）</p>			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. テスト 			

科目名	スポーツ科学概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	八坂 一彦・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] スポーツに関する現象や人間の振る舞いを研究する分野をスポーツ科学といい、スポーツ科学の体系には哲学、社会学、心理学、コーチング論など様々な学問領域がある。本講義では、身体運動を生み出す生体のしくみを学ぶとともに、スポーツ科学の各学問領域の概要について理解することを目標とする。また、現場での実践を通じて、スポーツ領域における理学療法士の役割について理解する。			
[授業内容] 1. 身体運動を生み出す生体しくみと身体運動 2. 運動技能と運動能力の向上のためのスポーツ科学の役割 3. スポーツ領域における理学療法士の役割			
[教科書] ※関係プリント資料を随時配布			
[参考図書] 教養としてのスポーツ科学 早稲田大学スポーツ科学学術院 健康・スポーツ科学の基礎知識 第3版 道和書院			
[授業方法] 1. 講義 2. 演習・実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 授業、演習・実習態度 3. レポート			

科目名	医学用語	学年・学期	1学年・前期						
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・15時間						
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。								
[授業目標]									
臨床現場で日常的に使用される人体に関する医学用語を理解する。									
[授業内容]									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体各部の名称 2. 関節の名称 3. 位置関係と方向 4. リハビリテーション医学用語 									
[教科書]									
講義に必要なプリント等の資料配布									
[参考図書]									
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">理学療法学辞典</td> <td style="width: 70%;">医学書院</td> </tr> <tr> <td>ポケット医学英和辞典</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>知っておきたい医療英単語</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>				理学療法学辞典	医学書院	ポケット医学英和辞典	医学書院	知っておきたい医療英単語	医学書院
理学療法学辞典	医学書院								
ポケット医学英和辞典	医学書院								
知っておきたい医療英単語	医学書院								
[授業方法]									
講義									
[成績評価方法]									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. テスト（小テストを含む） 									

科目名	医学英語	学年・学期	1学年・後期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・15時間
務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 医学的な基本分野およびリハビリテーション医学用語に関する専門医学英語の理解を目的とする。			
[授業内容] 1. 骨・関節・筋・神経の基本的知識の理解と英語表記 2. 疾患・障害に関する基本的知識の理解と英語表記 3. リハビリテーション医学用語の英語表記			
[教科書] 資料配布			
[参考図書] リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社 カラー人体解剖学 西村書店 理学療法学辞典 医学書院 ポケット医学英和辞典 医学書院 ナースに必要な日常英語表現と略語 医学書院 リハビリテーションの基礎英語 メジカルビュー社			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト（小テストを含む）			

科目名	情報科学演習	学年・学期	1学年・前期
担当講師	大畑 剛・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
<p>[授業目標]</p> <p>理学療法士業務の多くにパソコンを取り入れたものが増えてきている。今後は電子カルテの導入や文献検索・学会発表等ネットワーク知識やマルチメディア関連の知識も重要となってくる。この講座では趣味から業務利用までを視野に入れたパソコン操作の習熟、および研究発表の方法論を習得目標とする。</p>			
<p>[授業内容]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.パソコンの基本的な操作法(W i n d o w s 1 0) 2.文書作成 (W o r d) 文字入力と編集 3.表計算ソフト入門 (E x c e l) 4.統計入門講座☆ 5.表計算ソフトの活用 (統計処理) ☆ 6.インターネットでの情報活用 (I E) ・メールの活用 7.プレゼンテーション作成入門 (P o w e r P o i n t) 8.統計処理の実際☆ 9.プレゼンテーション作成演習 I (テーマ決定) 10.プレゼンテーション作成演習 II (データ採取) 11.プレゼンテーション作成演習 III (データ処理) 12.プレゼンテーション作成演習 IV (スライド作成) 13.プレゼンテーション発表 I 14.プレゼンテーション発表 II 15.理学療法業務でのパソコン活用事例 <p>*進行の都合により上記内容の順番は変更致します。MS-Office は 2019 予定 ☆担当：専任教員</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントなど資料配布</p>			
<p>[参考図書]</p> <p>パソコン関連書籍</p>			
<p>[授業方法]</p> <p>グループワーク形式の演習、実習を中心に必要に応じて講義を行う。</p>			
<p>[成績評価方法]</p> <p>1. 出席状況 2. レポート 3. プレゼンテーション発表</p>			

科目名	発達心理学	学年・学期	1学年・後期
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 子どもの認知発達について理解する。			
[授業内容] 1. 運動発達と認知発達 2. 認知過程の発達 3. ピアジェの発達理論(I) 4. ピアジェの発達理論(II) 5. ヴィゴツキーの発達理論(I) 6. ヴィゴツキーの発達理論(II) 7. 発達障害について			
[教科書] 人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書]			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. レポート			

科目名	運動心理学	学年・学期	1学年・前期
担当講師	宮本省三・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] リハビリテーションの現場で運動指導に携る理学療法士は、狭義の運動学（Kinesiology）やバイオメカニクスのような自然科学的で客観的な運動理論だけの習得では不十分である。 ここでは、運動を教える主体と運動を覚える主体との相互作用における運動現象や感性といった主観的な身体論に迫る。具体的には、近年リハビリテーション領域でも注目されているアフオーダーダンス、モルフォロジー、オートポイエーシス、現象学、運動イメージ、メンタルプラクティス、芸術などについて取り上げ、それらの理論の理学療法への接点を模索する場とする。			
[授業内容] 1. 人間と身体 2. 身体と運動 3. 身体と感覚 4. 身体と言語 5. 身体と視覚 6. 身体と精神 7. 身体と学習			
[教科書] 教科書指定なし			
[参考図書] 『運動制御と運動学習』宮本省三（選）（協同医書出版社）			
[授業方法] 講義 演習 スライド			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. レポート			

科目名	人間発達学	学年・学期	1学年・通年
担当講師	山口 一郎	単位・時間数	1単位・15時間
[授業目標] <p>人間が形態や機能において変化し続ける変化を、一般的に発達という。 特に、人間の身体・運動・精神面の機能的かつ構造的な発達を理解する事は、発達診断や障害構造の理解に不可欠となる。 人間の発達過程について、中枢神経系の発達過程、その表れである姿勢や運動技能、精神機能の獲得過程を理解する。</p>			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 人間発達学総論2. 人間発達における各機能の発達3. 社会生活活動の発達4. 発達の諸段階と発達課題			
[教科書] <p>『直観の経営－「共感の哲学」で読み解く動態経営論 野中郁次郎・山口一郎』</p>			
[参考図書]			
[授業方法] <p>講義</p>			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. レポート			

科目名	日常生活動作概論	学年・学期	1学年・後期
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活動作（ADL）の基本的理解およびADLと障害の関係について理解する。 ・起居・移動動作について理解し、動作介助技術について理解する。 			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ADLの概念と範囲、各動作 3. ADLと障害 4. 起居・移動動作の基本 5. 姿勢と動き(I) 6. 姿勢と動き(II) 7. ノーリフティングケアの実際(I) 8. ノーリフティングケアの実際(II) 			
[教科書]			
日常生活動作学・生活環境学 新版 姿勢と動作		医学書院 メヂカルフレンド社	
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 実習態度 3. 小テスト 4. レポート			

科目名	保健体育	学年・学期	1学年・通年
担当講師	刈谷 三郎	単位・時間数	1単位・30時間
<p>[授業目標]</p> <p>生涯にわたってスポーツが楽しめるように、ゲームを中心にスポーツ自体の楽しさを味わい、仲間との協力・連携を深め、スポーツを楽しむことのできる能力や態度を身につける事を目標とする。</p> <p>具体的には、攻防分離型の球技（ソフトボール・バレーボール）、攻防一体型の球技（フットサル）を行う。授業の前半はグループ別に練習を行い、後半は他グループとのゲームを行う。</p> <p>グループでの活動は、各自の技能やチームの力量を向上できるよう、リーダーを中心に活動を行い、個人及びグループの技能を向上させ、全員がゲームを楽しめるようにする。</p>			
<p>[授業内容]</p> <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. <ソフトボール> 基本的技能の習得 <ol style="list-style-type: none"> 1) バッティングの技術 トスバッティング、ハーフバッティング、フリーバッティング 2) 守備の技術 キャッチボール、ゴロの捕球と返球、フライの捕球と返球 3) リーグ戦形式の班別対抗戦を行う 3. <バレーボール> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的技能の習得 パス:オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、移動パス サーブ:対人サーブ、サーブレシーブ スパイク、ブロックの初歩的練習 2) リーグ戦形式の班別対抗戦を行う 		<p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (授業展開説明、グループ分けなど) 2. <フットサル> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本的技能の習得 ドリブル、パス、シュート:インサイド、インステップ、アウトサイドの各キック 2) リーグ戦形式の班別対抗戦 前半はグリッド制で行い、後半はフリーで行う 	
<p>[教科書]</p>			
<p>[参考図書]</p>			
<p>[授業方法]</p> <p>晴天時はグラウンド、雨天時は室内（スポーツ科学講義、DVD学習等）</p> <p>※ タオル、着替え等は各自で準備しておいてください。</p>			
<p>[成績評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. 技能(ゲームを楽しめる程度) 3. 授業態度 4. グループ活動 5. 試験（レポート） 			

科目名	社会福祉学	学年・学期	1学年・前期
担当講師	稲垣 佳代	単位・時間数	1単位・15時間
[授業目標] <p>社会福祉の概念、法制、方法、動向などの基礎知識を習得する。さらに、具体の事例から、社会福祉の対象者が直面する「暮らしづらさ」とそれを支える社会福祉援助活動について考察することにより、実践科学としての社会福祉について理解を深める。</p>			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 社会の仕組みと人びとの暮らし2. 社会福祉の理念と概念3. 社会福祉の歴史4. 社会福祉にかかわる法律・制度・施策5. 社会福祉援助活動の基本的枠組み6. 社会福祉援助活動の展開7. 授業のまとめ8. 試験			
[教科書] <p>西村 昇ほか：七訂版社会福祉概論－その基礎学習のために，中央法規出版， 2022</p>			
[参考図書] <p>古川 孝順：社会福祉学原論（第2版），誠信書房，2005 久保 紘章ほか：ソーシャルワークの実践モデル－心理社会的アプローチからナラティブまで，川島書店，2005</p>			
[授業方法] <p>・講義を中心に展開する。</p>			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況（40%）2. テスト（60%）			

科目名	コミュニケーション概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築し、医療場面に必要なコミュニケーションの知識・技術・能力を習得することを目的としている。特に、患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、責任を持って医療を実践するための態度・倫理観を有し、行動できるよう、模擬患者参加によるロールプレイを活用する。			
[授業内容] 1. コミュニケーションとは 2. 自分を知る／他者理解 3. 他者理解（傾聴・共感） 4. 医療面接の目的・手順・注意点・質問法 5. 【医療面接演習】模擬患者とのロールプレイ（Ⅰ） 6. 【医療面接演習】模擬患者とのロールプレイ（Ⅱ） 7. 【医療面接演習】グループワーク			
[教科書] プリント等資料を随時配布			
[参考図書] あなたの患者になりたい 篠原出版新書 医者が心をひらくとき【上】【下】 医学書院 医療面接技法 医学書院 コミュニケーションスキルトレーニング 医学書院 患者接遇パーフェクト・レッスン 医学通信社 患者の声を医療に行かす 医学書院 戦略としての医療面接 医学書院			
[授業方法] 講義 実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 実習態度 3. レポート			

科目名	社会活動概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	園田 義顕・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>1. ボランティア活動や地域貢献などの社会活動を通じてその理念、役割を理解し説明できる。</p> <p>2. 医療・福祉と社会との関係性を理解し説明できる。</p> <p>3. 医療・福祉を取り巻く多様な課題を理解し、地域社会に貢献する必要性を体験的に理解する。</p>			
[授業内容]			
<p>1. 社会活動とはなにか</p> <p>2. ボランティアと地域貢献</p> <p>3. 環境・災害とボランティア</p> <p>4. ボランティアの課題および内容の設定</p> <p>5. 医療・福祉を取り巻く課題</p> <p>6. 社会貢献の意義</p> <p>7. 地域連携におけるボランティア</p> <p>8. 国際社会とボランティア</p>			
[教科書]			
プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 実習態度 3. レポート			

専門基礎分野

目次

人体の構造と機能及び心身の発達

〈解剖学〉

解剖学Ⅰ 1 - ⑮

解剖学Ⅱ 1 - ⑯

解剖学Ⅲ 1 - ⑰

解剖学Ⅳ 1 - ⑱

〈生理学〉

生理学Ⅰ 1 - ⑲

生理学Ⅱ 1 - ⑳

〈運動学〉

運動学Ⅰ 1 - ㉑

運動学Ⅱ 1 - ㉒

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

病理学概論 1 - ㉓

運動発達学 1 - ㉔

解剖学演習 1 - ㉕

解剖生理学演習 1 - ㉖

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

リハビリテーション概論 1 - ㉗

リハビリテーション医学 1 - ㉘

チーム医療概論 1 - ㉙

科目名	解剖学 I	学年・学期	1 学年・前期
担当講師	高橋 弘	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業目標]			
<p>解剖学は生物の構造を追究する学問であり、解剖学 I では人体の構造の基本となる骨および筋について学習する。人体の形態保持や運動を行うための骨および筋にはどのようなものがあるのか具体的に理解することを目標とする。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学総論 2. 骨 総論 3. 骨 脊柱 4. 骨 胸部 5. 骨 上肢 6. 骨 下肢・骨盤 7. 骨 頭蓋 8. 骨 頭蓋 9. 筋 総論 10. 筋 頭部・頸部・胸部 11. 筋 腹部・背部 12. 筋 上肢 13. 筋 下肢 14. 骨・筋のまとめ 15. 試験 			
[教科書]			
<p>カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス P. タンク著 MEDSi</p>			
[参考図書]			
<p>解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂</p>			
[授業方法]			
<p>講義（関係の標本を用いて授業を行う）</p>			
[成績評価方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. テスト 			

科目名	解剖学Ⅱ	学年・学期	1学年・後期
担当講師	高橋 弘	単位・時間数	1単位・30時間
[授業目標] 解剖学Ⅱでは、体内の情報を伝えるシステムである神経系・内分泌系の構造的特徴について説明できることを目標とする。			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 神経 神経系の概観2. 神経 脊髄の外観と断面3. 神経 脊髄神経の分布4. 神経 脳の区分、脳の保護機構5. 神経 終脳、機能局在、大脳辺縁系、基底核6. 神経 間脳、橋、延髄、小脳7. 神経 脳神経8. 神経 感覚路9. 神経 運動路10. 神経 感覚器11. 神経 自律神経系12. 内分泌 視床下部、下垂体13. 内分泌 甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓14. まとめ15. 試験			
[教科書] カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス P. タンク著 MEDSi			
[参考図書] 解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法] 講義 スライド			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. テスト			

科目名	解剖学Ⅲ	学年・学期	1学年・前期
担当講師	田中 健二郎	単位・時間数	1単位・30時間
[授業目標] 人体を構成する細胞や細胞の集合体である組織について学習する。 また、1個の受精卵から人体が形成されていく様子について学ぶ。			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 細胞 細胞の構造2. 細胞 蛋白質と核酸3. 組織 上皮組織4. 組織 筋組織5. 組織 神経組織6. 組織 結合組織①7. 結合組織②8. 組織 骨・軟骨9. 組織 血液・リンパ系①10. 血液・リンパ系②11. 発生 配偶子形成と受精・着床12. 発生 胚の分化と器官形成13. 発生 胎児と胎盤14. 発生 発生の異常15. 試験			
[教科書] カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス 第2版 P. タンク著 MEDSi			
[参考図書] 解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法] 講義 スライド			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. テスト			

科目名	解剖学Ⅳ	学年・学期	1学年・後期
担当講師	田中 健二郎	単位・時間数	1単位・30時間
[授業目標] 消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系および生殖器系の構造と機能を理解することを目標とする。			
[授業内容] 1. 消化器系 口腔、歯、唾液腺 2. 消化器系 咽頭、食道 3. 消化器系 胃 4. 消化器系 小腸、大腸 5. 消化器系 肝臓、胆嚢、膵臓 6. 呼吸器系 鼻、喉頭、気管、気管支 7. 呼吸器系 胸膜、肺 8. 循環器系 心臓 9. 循環器系 動脈、リンパ 10. 泌尿器系 腎臓 11. 泌尿器系 膀胱、尿道 12. 生殖器系 精巣、前立腺、精嚢 13. 生殖器系 卵巣、子宮 14. まとめ 15. 試験			
[教科書] カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H.マティーニ著 西村書店 あたらしい人体解剖学アトラス 第2版 P. タンク著 MEDSi			
[参考図書] 解剖学講義 伊藤 隆 著 南山堂 人体系統解剖学 吉川 文雄 著 南山堂			
[授業方法] 講義 スライド			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	生 理 学 I	学年・学期	1 学年・前期
担当講師	有川 幹彦	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業目標]			
<p>我々の身体は、生命を維持するために、環境の変化に対して常に適応することが求められる。この要求を満たすため、身体には様々な調節機構が備わっており、これが破綻した状態がいわゆる病気である。2 年間に渡って開講する生理学では、人体の正常な生理機能を学習することで環境適応の仕組みを理解し、主要な疾患の病態生理を概説できるようにする。そのためにまず、生理学 I では、主に化学・生物学の知識を整理し定着させる。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 生理学の基礎 <ol style="list-style-type: none"> 1.1 生理学とは 1.2 生体で機能する分子 1.3 細胞の構造と機能 1.4 細胞外液 2 栄養と代謝 <ol style="list-style-type: none"> 2.1 ATP の合成過程 2.2 中間代謝 3 興奮性細胞 <ol style="list-style-type: none"> 3.1 膜電位 4 神経の基本的機能 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 興奮の発生と伝導 4.2 興奮の伝達 5 筋肉の基本的機能 <ol style="list-style-type: none"> 5.1 興奮収縮連関（1） 5.2 興奮収縮連関（2） 5.3 収縮の仕方とエネルギー 5.4 心筋と平滑筋 			
[教科書]			
岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野、生理学・第 5 版、医学書院、2018 年			
[参考図書]			
<p>三井和浩：ナーシング・グラフィカ(2) 臨床生化学、メディカ出版、2007 年 貴邑富久子：シンプル生理学・改定第 6 版、南江堂、2008 年 坂井建雄：人体の正常構造と機能・改訂第 2 版、日本医事新報社、2012 年</p>			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 小テスト 3. 受講態度 4. 筆記試験			

科目名	生 理 学 II	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	村田 芳博	単位・時間数	1 単位・30 時間
[授業目標] <p>私たちの身体には、環境の変化にうまく適応するための仕組みがいろいろと備わっていて、これがもしうまく働かないと病気になってしまう。主な疾患やその検査法を理解する基礎を養うため、人体の仕組みを学修する。生理学 I で学修したことを基礎として、生理学 II では神経系の基本的なはたらきを学修する。</p>			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション、生理学 I の復習 (TBL 練習)2. 講義① 運動機能 筋 骨格筋の機能分化とその背景3. 講義② " 運動単位 運動単位とその機能分化4. 講義③ " " 機能分化の背景、サイズの原理5. TBL (1) 講義①～③のまとめ6. 講義④ 運動機能 骨格筋の感覚器 筋紡錘、ゴルジ腱器官7. 講義⑤ " 姿勢の維持 伸張反射、自己抑制8. 講義⑥ " " 反射の協調9. TBL (2) 講義④～⑥のまとめ10. 講義⑦ 運動機能 随意運動 大脳皮質11. 講義⑧ " " 大脳基底核、小脳12. 講義⑨ 感覚機能 痛覚 受容器、伝導路13. 講義⑩ " " 痛覚の性質：順応、痛覚過敏など14. TBL (3) 講義⑦～⑩のまとめ15. 全体のまとめ、ピア評価 (相互評価)			
[教科書] <ol style="list-style-type: none">1. 岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第 5 版、医学書院、2018 年2. 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.7 脳・神経第 2 版、メディックメディア、2017 年			
[参考図書] <ol style="list-style-type: none">1. 坂井建雄：人体の正常構造と機能改訂第 4 版、日本医事新報社、2021 年2. 本間研一：標準生理学第 9 版、医学書院、2019 年			
[授業方法] <ol style="list-style-type: none">1. 講義：一部、小テスト (筆記) を含む。2. TBL (チーム基盤型学習)			
[成績評価方法] <p>原則として、出席要件を満たすことを前提に、条件(A)と(B)の両方を満たした者を合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none">・配分：1. 小テストと TBL 個人戦 30% 2. TBL 団体戦 50% 3. TBL 応用課題 20%・条件：(A) 1. (30 点満点) が 15 点以上 (B) 1. ～3. の合計(100 点満点) が 60 点以上			

科目名	運 動 学 I	学年・学期	1 学年・前 期
担当講師	園田 義頭	単 位 ・ 時 間 数	1 単 位 ・ 3 0 時 間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている		
[授業目標] 生体の構造と機能を把握することで、はじめて運動機能評価および治療の実践が可能となる。運動学は「人間の運動の科学」と定義され、解剖学的構造理解に加え、力学的・生理学的・心理的要素などを動員して理解される必要がある。 本講義では、その基礎知識としての人体の骨・関節・筋及び肢位・運動方向の基本事項について理解する。			
[授業内容] 1.運動学の捉え方 2.身体運動の基本肢位 3.身体運動の位置と方向 4.身体運動の面と軸 5.関節運動の表現 6.構えと体位 7.肢位の表現 8.静的姿勢と動的姿勢 9.筋収縮の基本的性質 10.筋収縮の機序 11.筋収縮の種類 12.身体とてこ			
[教科書] 人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書] 基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 プリント等資料を随時配布			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	運 動 学 II	学年・学期	1 学年・後 期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 運動学は運動を研究する学問であり、対象が人間に限定されるならばそれは人間運動の科学的研究となる。運動を実行する身体の構造的側面と機能的側面が理解されることによって、はじめて人間の運動の治療が可能となる。 本講義では、下肢（股関節・膝関節・足関節・足部）における骨、関節、靭帯、筋の働きについて理解することを目的とする。			
[授業内容] 1. 立位姿勢 2. 股関節の関節運動と筋活動 3. 膝関節の関節運動と筋活動 4. 足関節・足部の関節運動と筋活動			
[教科書] 人間の運動学 協同医書出版 ※その他、関係プリント資料を随時配布			
[参考図書] 基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 図解 関節・運動器の機能解～下肢編～ J・CASTAING 著 協同医書出版社 カパンディ 関節の生理学 医歯薬出版株式会社 カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版株式会社 観察による歩行分析 Kirsten Gotz-Neumann 著 医学書院			
[授業方法] 1. 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	病 理 学 概 論	学年・学期	1 学年・通 年
担当講師	大原 栄二・他	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	臨床検査技師として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>病理学は、疾病の原因とその成り立ちについての学問であり、医学・医療の最も基本的な学問である。疾病に関してその原因を明らかにし、その原因が生体にどのように作用しそれに対する生体の反応がどのようなものであり、その結果どのような経過を経て疾病が成立し、進行、終息していくのか(予後)を知る学問である。</p> <p>総論では、疾病に共通する病変について、各論では、がんのリハビリテーションについて理解することを目標とする。</p>			
[授業内容]			
<p>1. 総論</p> <p>退行性病変、代謝異常、進行性病変、(全身・局所の)循環障害、免疫、炎症及び感染症、腫瘍、先天異常や奇形など</p> <p>2. 各論</p> <p>がんのリハビリテーション</p>			
[教科書]			
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版			
[参考図書]			
<p>① 図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ 秀和システム</p> <p>② 病理学：第4版：坂本 穆彦 編 医学書院 系統看護学講座．専門基礎分野．疾病のなりたちと回復の促進 [1]</p> <p>③ 病理学 第2版：梶原博毅 編 医学書院 2003. 標準理学療法学・作業療法学・専門基礎分野シリーズ監修（奈良、鎌倉）</p>			
[授業方法]			
講義、スライド			
[成績評価方法]			
出席、試験			

科目名	運動発達学	学年・学期	1学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] <ol style="list-style-type: none">1. 子どもの運動発達理論について理解する。2. 子どもの運動発達年齢について理解する。3. 子どもの運動発達における姿勢反射と動作の関連性を理解する。4. 子どもの認知発達の重要性について理解する。5. 子どもの発達科学の動向を知る。			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 運動と感覚2. 運動発達学総論3. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅰ）4. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅱ）5. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅲ）6. 正常運動発達と姿勢反射（Ⅳ）7. 小児のリハビリテーション			
[教科書] <p>人間の運動学 協同医書出版</p>			
[参考図書] <p>新版 姿勢と動作 メヂカルフレンド社 脳性麻痺の反射検査 第2版 医歯薬出版 小児リハビリテーションのための神経と発達の診かた 新興医学出版社 運動の生物学（2）：臨床家のための発達科学入門，塚本芳久著 協同医書出版 乳児の発達：正常とボーダーライン，Flehming 著（諸岡啓一訳） 文光堂</p>			
[授業方法] <p>講義</p>			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. テスト			

科目名	解剖学演習	学年・学期	1学年・前期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<ul style="list-style-type: none"> ・骨の名称や形状、その機能の特徴について理解する ・筋の名称や作用について理解する 			
[授業内容]			
<ul style="list-style-type: none"> ・骨、筋のスケッチ ・骨、筋の視診と触診 			
[教科書]			
<p>カラー人体解剖学 （西村書店）</p> <p>新・徒手筋力検査法 （協同医書出版社）</p>			
[参考図書]			
<p>人間の運動学 （協同医書出版社）</p> <p>Know the Body （医歯薬出版株式会社）</p>			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト（小テストを含む） 3. 課題提出			

科目名	解剖生理学演習	学年・学期	1 学年・通年
担当講師	明神 茉倫子・高橋 弘	単位・時間数	1 単位・30 時間
実務経験者の概要	明神 茉倫子：理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
担当：明神 茉倫子 内臓の解剖生理を理解する（循環、呼吸、消化器を中心に） 筋の英語名、作用、起始・付着、支配神経、髓節を理解する			
担当：高橋 弘 人体の観察			
[授業内容]			
担当：明神 茉倫子 内臓の全体像と機能 筋の英語名、作用、起始・付着、支配神経、髓節			
担当：高橋 弘 人体解剖見学実習			
[教科書]			
新・徒手筋力検査法（協同医書出版社）			
[参考図書]			
カラー人体解剖学（西村書店） 人間の運動学（協同医書出版社） Know the Body（医歯薬出版株式会社）			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト（小テストを含む） 3. 課題提出 4. 実習 5. レポート			

科目名	リハビリテーション概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>リハビリテーションという言葉とその概念が我が国に導入されて半世紀以上が経過した。この半世紀で我が国におけるリハビリテーションは、理解、認識され、社会的位置付けも確固たるものとなった。21世紀を迎え、我が国は高齢・少子社会へと移行し、リハビリテーションの対象が超高齢者からゼロ歳児までの幅広い層を包含する時代となった。</p> <p>また、障害者の自立、生活の質向上を背景として、医療はもとより福祉、保健の領域において、リハビリテーションの必要性和重要性が改めて強調されるようになった。</p> <p>リハビリテーションの一翼を担う専門家として日常業務を遂行する上では、理学療法の学問領域にとどまることなくリハビリテーション全体を理解しておくことが大切である。</p> <p>「リハビリテーション概論」の授業では、リハビリテーション医療の近年的動向を含め、リハビリテーションの全般的概要の理解を目指す。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとは —歴史・理念・思想— 2. 医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方 3. リハビリテーション医療 —急性期・回復期・生活期— 4. 疾患と障害の関係 —国際障害分類(ICIDH)と国際生活機能分類(ICF) 5. リハビリテーションの過程 6. リハビリテーションと社会保障 7. 医療・保健・福祉の連携 			
[教科書]			
リハビリテーションビジュアルブック 第2版			
[参考図書]			
<p>『リハビリテーション総論』 椿原彰夫 診断と治療社</p> <p>『理学療法概論』 庄本康治 羊土社</p> <p>『最新 リハビリテーション医学』 江藤文夫・里宇明元 医歯薬出版</p> <p>『リハビリテーション概論』 真柄彰・鴨下博 理工図書</p> <p>『入門 リハビリテーション概論』 中村隆一 医歯薬出版</p> <p>『リハビリテーション概論』 上好昭孝・田島文博 永井書店</p> <p>『機能障害科学入門』 千住秀明・監修 神陵文庫</p>			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
1. テスト 2. 出席状況 3. 授業・演習態度 4. レポート			

科目名	リハビリテーション医学	学年・学期	1学年・後期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 講義では、医学モデルと障害モデル、病理指向的アプローチと機能指向的アプローチなど、リハビリテーション医学の基本概念を紹介するとともに、リハビリテーション実施上問題となる機能障害を概説する。また、リハビリテーション医療の対象となる疾病の種類や概念について、基本的な知識を理解する。特に、疾病の原因や疾病による身体の変化に関する基本的な医学用語を理解する。			
[授業内容] 1. リハビリテーション医学の構造と特徴 2. リハビリテーションにける各種障害 -各障がいの理解、運動障害、感覚障害- 3. リハビリテーション医療における対象疾患-脳血管障害- 4. リハビリテーション医療における対象疾患-末梢神経疾患- 5. リハビリテーション医療における対象疾患-パーキンソン病- 6. リハビリテーション医療における対象疾患-運動器疾患- 7. リハビリテーション医療における対象疾患-神経筋疾患- 8. その他 人口動態と死亡原因			
[教科書] 病気がみえる 脳・神経 MEDIC MEDIA			
[参考図書] リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 小テスト 3. 定期試験			

科目名	チーム医療概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	八坂 一彦・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 病院には、多種多様な医療スタッフが働いている。近年、医療の質や安全性の向上及び高度化・複雑化に伴う業務の増大に対応するため、それぞれの専門スキルを発揮するとともに、異なる職種の医療スタッフが連携・補完しあい、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」が様々な医療現場で実践されている。 本講では、「チーム医療」に関わる医療スタッフの特徴を理解するとともに、チーム医療の実践について理解する。			
[授業内容] 1. チーム医療とは 2. 医療スタッフの特徴 3. チーム医療の実際 ①急性期・救急医療の場面 ②回復期、慢性期医療の場面 ③在宅医療の場面 ④その他			
[教科書] リハビリテーションビジュアルブック 学研メディカル秀潤社			
[参考図書] 『リハビリテーション総論』 椿原彰夫 診断と治療社			
[授業方法] 講義、演習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 授業、演習態度 3. レポート			

専門分野

目次

基礎理学療法学

理学療法評価概論 1 - ③⑩

運動療法概論 1 - ③⑪

物理療法概論 1 - ③⑫

理学療法評価学

理学療法評価学Ⅰ 1 - ③⑬

理学療法評価学Ⅱ 1 - ③⑭

理学療法評価学Ⅲ 1 - ③⑮

理学療法治療学

障害者スポーツ学 1 - ③⑯

臨床実習

臨床見学実習 1 - ③⑰

科目名	理学療法評価概論	学年・学期	1学年・前期
担当講師	明神 茉倫子	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 理学療法評価の意義・目的・種類やその方法について理解する。中でも、意識障害、バイタルサイン、姿勢評価、形態測定、感覚検査、痛みの評価について、それぞれの評価に必要な基本事項を理解し、検査測定技術を習得することを目標とする。			
[授業内容] 1. 意識障害 2. バイタルサイン：体温 3. バイタルサイン：呼吸 4. バイタルサイン：脈拍 5. バイタルサイン：血圧 6. 姿勢評価 7. 形態測定：四肢長 8. 形態測定：周径 9. 感覚検査：概要、表在感覚 10. 感覚検査：深部感覚、複合感覚 11. 痛みの評価 12. 評価の基礎 13. 評価の進め方 14. 医療面接と情報収集			
[教科書] リハビリテーション基礎評価学（羊土社）			
[参考図書] 理学療法評価学（金原出版）			
[授業方法] 講義 実技			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト（筆記、実技）			

科目名	運動療法概論	学年・学期	1学年・通年
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 運動療法とは、系統的に計画し実施する身体の運動、姿勢、身体活動のための治療法であり、機能障害の改善または予防・身体機能の改善、回復、強化・健康関連のリスク要因の予防または軽減・全身の健康状態、健康維持、健康生活感の最適化などを目的に理学療法士が実施する治療全般を指す。 本講義では、運動療法を実践する上で必要な解剖学、生理学、運動学、病理学の基本事項について理解し、また、運動療法の基本的な技術を体験することを通して、運動療法に対する理解を深めることを目標とする。			
[授業内容] 1. 運動療法とは何か 運動療法の概要・目的・基本的身体動作機能と運動学 2. 運動療法の基本技術 関節可動域の改善、筋力・筋持久力の改善、協調性の改善、バランスの改善など			
[教科書] 理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学 (メディカルビュー社) ※関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト(筆記)			

科目名	物理療法概論	学年・学期	1学年・後期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 物理療法の種類について理解する。 物理療法の適応の多い病態を理解する。 物理療法の適応と禁忌について理解する。 温熱、寒冷、水治、牽引療法について理解し、実践する。			
[授業内容] 1. 物理療法の定義、目的、種類 2. 物理療法の効果、適応、禁忌、リスク管理 3. 病態の理解（炎症、浮腫、疼痛、麻痺） 4. 温熱療法の理論と実際 5. 寒冷療法の理論と実際 6. 水治療法の理論と実際 7. 牽引療法の理論と実際			
[教科書] 『物理療法 第2版』千住秀明・監修、沖田実・編集（神陵文庫）			
[参考図書] 『理学療法ハンドブック 第2巻治療アプローチ』細田多穂・他編（協同医書出版社） 『EBM 物理療法 原著第4版』Michelle H. Cameron・編著、渡部一郎・監訳（医歯薬出版株式会社） 『理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック』木村貞治・編集（文光堂） 『標準理学療法学「物理療法学」第3版』網本和・編集（医学書院） 『物理療法学テキスト』細田多穂・監修（南江堂） 『機能障害科学入門』千住秀明・監修（神陵文庫）			
[授業方法] 講義 演習 実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト 3. 授業、演習・実習態度 4. レポート			

科目名	理学療法評価学Ⅰ	学年・学期	1学年・後期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>理学療法評価における一般的評価事項の理解と評価技術の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関節可動域検査の意義、手順、結果の解釈を学ぶ ・ 各関節の関節可動域の検査方法を学ぶ 			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 正常な関節可動域と異常な関節可動域 2 関節可動域における最終域感 3 関節可動域検査の手順 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関節可動域測定留意点 ・ 関節可動域測定結果の記録上の留意点 4 関節可動域検査（頸部） 5 関節可動域検査（体幹） 6 関節可動域検査（肩甲骨） 7 関節可動域検査（肩） 8 関節可動域検査（肘・前腕） 9 関節可動域検査（手） 10 関節可動域検査（手指） 11 関節可動域検査（股） 12 関節可動域検査（膝） 13 関節可動域検査（足） 14 関節可動域検査の結果の解釈 			
[教科書]			
<p>『リハビリテーション基礎評価学』（羊土社）</p> <p>*プリント等資料を随時配布</p>			
[参考図書]			
<p>『know the body』（医歯薬出版）</p> <p>『リハビリテーションビジュアルブック』落合慈之（監）（学研メディカル秀潤社）</p> <p>『理学療法評価学』松澤 正著（金原出版）</p> <p>『標準理学療法学シリーズ：理学療法評価学』奈良 勲監修（医学書院）</p> <p>『リハビリテーションにおける評価 ver.2』米本恭三編（医歯薬出版）</p>			
[授業方法]			
<p>講義 実習</p>			
[成績評価方法]			
<p>1. 出席状況 2. テスト（筆記・実技）</p>			

科目名	理学療法評価学Ⅱ	学年・学期	1学年・通年
担当講師	明神 茉倫子	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 人間の身体運動を客観的に捉えていくために実施する評価の中で、筋出力の測定は基本的かつ重要な項目である。特に理学療法においては、より整合性の高い目標を設定していくための重要な指標となるため、筋出力の正確な検査・測定技術を身につけることは必須である。本講義では、筋の基本的知識を学習するとともに、筋出力の評価として臨床現場で頻繁に用いられる「徒手筋力検査法（Manual Muscle Testing：MMT）」について、正確な測定技術を身につけることを目標とする。			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. MMT の概要2. 下肢の MMT3. 上肢の MMT4. 頭頸部・体幹の MMT5. 脳神経支配筋の MMT6. ハンドヘルドダイナモメトリー			
[教科書] 新・徒手筋力検査法第10版（協同医書出版社）			
[参考図書] 新板 目で見える MMT （医歯薬出版株式会社） 臨床での検査精度を高める！MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御 （メジカルビュー社） リハビリテーション基礎評価学 第2版（羊土社）			
[授業方法] 講義 実技			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. テスト（筆記・実技）			

科目名	理学療法評価学Ⅲ	学年・学期	1学年・後期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>理学療法評価学Ⅲでは、臨床において必要となる各種の検査・測定について講義する。主な評価項目は、反射検査（深部反射・表在反射・病的反射）、筋トーン検査、バランス検査であり、各評価に必要な学問背景を講義した後に、それぞれの手段の臨床における意義についての理解を促し、検査測定技術の習得を目標とする。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 反射の種類とメカニズム 2. 筋緊張の神経制御 3. 深部反射検査の実際 4. 表在反射検査の実際 5. 病的反射検査の実際 6. 反射所見の記録法 7. 筋トーンの異常所見 8. 筋トーン検査の実際 9. バランスの制御機構 10. バランス検査の実際 			
[教科書]			
<p>リハビリテーション基礎評価学 潮見 泰藏・下田 信明 編（羊土社） ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・斉藤佳雄著（南山堂）</p>			
[参考図書]			
<p>理学療法評価学 松澤 正著（金原出版） 標準理学療法学シリーズ：理学療法評価学 奈良 勲監修（医学書院） リハビリテーション診療必携第3版 渡辺英夫編（医歯薬出版） 人体の正常構造と機能 坂井 建雄・河原 克雅 編（日本医事新報；改訂第2版）</p>			
[授業方法]			
<p>講義および実技</p>			
[成績評価方法]			
<p>1. 出席状況 2. テスト（筆記，実技）</p>			

科目名	障害者スポーツ学	学年・学期	1学年・通年
担当講師	八坂 一彦・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] ○初級障がい者スポーツ指導員の取得を目指す。 ○障がいや障がい者スポーツの楽しさ、安全管理等に関する基礎的な知識を身につけ、障がい者に対応するための基本的な技術の獲得を目指す。 ○地域の大会や行事に参加し、障がい者スポーツを体験する。			
[授業内容] 1. 障害者スポーツ学総論（オリエンテーション） 2. スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 3. 障がい者スポーツの意義と理念 4. 各地域の障がい者スポーツ推進の取り組み 5. 障がい者スポーツに関する諸施策 6. 安全管理 7. 各障がいの理解 8. 全国および高知県障がい者スポーツ大会の概要 9. 障がいのある人との交流（高知県障害者スポーツ大会の参加）			
[教科書] 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級) ぎょうせい 全国障害者スポーツ大会 競技規則集 公益社団法人日本障がい者スポーツ協会			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 授業・実習態度 3. レポート			

科目名	臨床見学実習	学年・学期	1学年・通年
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>理学療法士の職業理解</p> <p>理学療法過程の理解</p>			
[授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習開始前に学内でのオリエンテーション 2. 学院指定の実習施設での臨床見学実習 理学療法場面における患者への対応などについての見学 3. 提出書類の作成・提出 			
[成績評価方法]			
<p>出席状況、実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)を元に、学内で臨床見学実習単位認定会議を開催し単位認定とする。</p>			

2 学年 授業科目要綱

令和4年度 2学年・授業科目・単位数・担当者一覧

2年生

分野 指定規則単位	科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎分野	科学的思考の基礎	身体哲学概論	1	15	1					宮本 省三	専任講師		
		脳科学概論	1	15		1				明神 茉倫子	専任講師		
		スポーツ科学概論	1	15	1					八坂 一彦・他	専任講師・他		
		医学用語	1	15	1					小野 美紀	専任講師		
		医学英語	1	15		1				小野 美紀	専任講師		
		情報科学演習	1	30		1				大畑 剛・他	非常勤講師		
	人間と生活	発達心理学	1	15		1				宮本 省三・他	専任講師・他		
		運動心理学	1	15	1					宮本 省三・他	専任講師・他		
		人間発達学	1	15		1				山口 一郎	非常勤講師		
		日常生活動作概論	1	15		1				小野 美紀・他	専任講師・他		
	社会の理解	保健体育	1	30		1				刈谷 三郎	非常勤講師		
		社会福祉学	1	15	1					稲垣 佳代	非常勤講師		
		コミュニケーション概論	1	15		1				小野 美紀・他	専任講師・他		
		社会活動概論	1	15	1					園田 義顕・他	専任講師・他		
計	14	14	240	6	8	0	0	0	0				
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	1	30	1					由利 和也	非常勤講師	
			解剖学Ⅱ	1	30		1				高橋 弘	非常勤講師	
			解剖学Ⅲ	1	30	1					田中 健二郎	非常勤講師	
			解剖学Ⅳ	1	30		1				由利 和也	非常勤講師	
		生理学	生理学Ⅰ	1	30	1					有川 幹彦	非常勤講師	
			生理学Ⅱ	1	30		1				村田 芳博	非常勤講師	
			生理学Ⅲ	1	30			1					
			生理学Ⅳ	1	30				1				
		運動学	運動学Ⅰ	1	30	1						園田 義顕	専任講師
			運動学Ⅱ	1	30		1					宮本 省三	専任講師
			運動学Ⅲ	1	30			1					
			運動学Ⅳ	1	30			1					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1	30		1					大原 栄二・他	非常勤講師	
		リハビリテーション内科学	1	30				1			柿沼 由彦・他	専任講師・他	
		リハビリテーション整形外科	1	30			1				沖田 学・他	非常勤講師	
		リハビリテーション神経学	1	45				1			園田 義顕・田淵 充勇	専任講師	
		リハビリテーション栄養・薬理学	1	15			1				小野 美紀・他	専任講師・他	
		救命救急医学・リスク管理学	1	15				1			池田 武史・他	非常勤講師	
		臨床データ診断学	1	15					1				
		精神医学	1	30				1			川淵 忠義・他	非常勤講師	
		老年病学	1	30				1			明神 茉倫子	専任講師	
		運動発達学	1	15	1						宮本 省三	専任講師	
		解剖学演習	1	30	1						明神 茉倫子	専任講師	
		生理学演習	1	30			1				村田 芳博	非常勤講師	
		解剖生理学演習	1	30		1					明神 茉倫子	専任講師	
		運動学演習	1	30				1			田淵 充勇・他	専任講師・他	
	リハビリテーションの理念と実践	リハビリテーション概論	1	30	1						八坂 一彦	専任講師	
		リハビリテーション医学	1	30		1					宮本 省三	専任講師	
社会保障論		1	15					1					
チーム医療概論		1	15	1						八坂 一彦・他	専任講師・他		
計	30	30	825	8	7	7	6	1	1				

分野 指定規則単位	科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法評価概論	1	30	1					明神 茉倫子	専任講師
		運動療法概論	1	45		1				田淵 充勇	専任講師
		物理療法概論	1	30		1				八坂 一彦	専任講師
		理学療法基礎セミナーⅠ	1	30				1		宮本 省三・他	専任講師
		理学療法基礎セミナーⅡ	1	45					1		
		理学療法基礎セミナーⅢ	1	45					1		
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30		1				田淵 充勇	専任講師
		理学療法評価学Ⅱ	1	45		1				宮本 省三	専任講師
		理学療法評価学Ⅲ	1	30		1				園田 義顕	専任講師
		理学療法評価学Ⅳ	1	30			1			園田 義顕	専任講師
		理学療法評価学Ⅴ	1	30				1		田淵 充勇	専任講師
		理学療法評価学演習	1	30				1		宮本 省三・他	専任講師
	理学療法 管理学	理学療法管理学	1	15					1		
		理学療法教育学	1	15					1		
	理学療法治療学	関節機能障害理学療法学	1	30			1			宮内 博雄・齋田 昭宏	非常勤講師
		一般外傷理学療法学	1	30			1			八坂 一彦	専任講師
		スポーツ外傷理学療法学	1	30				1		大久保 史司・古川 裕之	非常勤講師
		障害者スポーツ学	1	30		1				八坂 一彦・他	専任講師・他
		末梢神経障害理学療法学	1	30				1		田淵 充勇・他	専任講師
		脊髄障害理学療法学	1	30				1		高橋 昭彦・他	非常勤講師
		脳障害理学療法学Ⅰ	1	30			1			宮本 省三	専任講師
		脳障害理学療法学Ⅱ	1	30				1		明神 茉倫子	専任講師
		脳障害理学療法学Ⅲ	1	30				1		園田 義顕	専任講師
		小児理学療法学	1	30				1		宮本 謙三	非常勤講師
		呼吸器障害理学療法学	1	30			1			宅間 豊	非常勤講師
		循環器障害理学療法学	1	30			1			前田 秀博	非常勤講師
		物理療法学	1	30			1			八坂 一彦	専任講師
		義肢学	1	30				1		鶴見 隆正	非常勤講師
		装具学	1	30			1			岡上 正弘	非常勤講師
		日常生活動作学	1	30			1			小野 美紀	専任講師
		運動療法技術学	1	30				1		八坂 一彦	専任講師
		認知神経リハビリテーション学	1	30				1		宮本 省三・他	専任講師
		理学療法治療学セミナー	1	45					1		
理学療法研究法	1	30					1				
地域理学 療法学	地域リハビリテーション学Ⅰ	1	30			1			佐藤 健三	非常勤講師	
	地域リハビリテーション学Ⅱ	1	30				1		小野 美紀	専任講師	
	生活環境論	1	30				1		小野 美紀	専任講師	
臨床実習	臨床見学実習	1	45		1				宮本 省三	専任講師	
	臨床評価実習Ⅰ	1	45			1			宮本 省三	専任講師	
	臨床評価実習Ⅱ	2	90				2		宮本 省三	専任講師	
	総合臨床実習	15	675					15			
	地域見学実習	1	45					1			
計	57		57	2055	1	7	11	16	15	7	
合計	101		101	3120	15	22	18	22	16	8	
3120時間					37単位		40単位		24単位		
					945時間		1230時間		945時間		
					101単位 3120時間						

専門基礎分野

目次

人体の構造と機能及び心身の発達

〈生理学〉

生理学Ⅲ 2-①

生理学Ⅳ 2-②

〈運動学〉

運動学Ⅲ 2-③

運動学Ⅳ 2-④

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

リハビリテーション内科学 2-⑤

リハビリテーション整形外科学 2-⑥

リハビリテーション神経学 2-⑦

リハビリテーション栄養・薬理学 2-⑧

救命救急医学・リスク管理学 2-⑨

精神医学 2-⑩

老年病学 2-⑪

生理学演習 2-⑫

運動学演習 2-⑬

科目名	生 理 学 Ⅲ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	大塚 智子	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	獣医師として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>1年次に引き続き、人体の正常な生理機能を学習する。</p> <p>生理学Ⅲでは、内分泌、消化・吸収、血液、体温調節を取り上げる。</p> <p>1年次に学習した解剖学や2年次で平衡して学習する臨床系科目などに関連付けるよう促すことで、理解の充実と知識の定着を目指す。</p>			
[授業内容]			
<p>1. 内分泌</p> <p>1) 総論</p> <p>2) 視床下部, 下垂体</p> <p>3) 松果体</p> <p>4) 甲状腺, 上皮小体</p> <p>5) 副腎</p> <p>6) 膵臓</p> <p>2. 消化・吸収</p> <p>1) 総論</p> <p>2) 口腔, 唾液腺, 咽頭, 食道</p> <p>3) 胃</p> <p>4) 膵臓, 肝臓, 胆嚢</p> <p>5) 小腸 (十二指腸, 空腸, 回腸), 大腸 (結腸, 直腸), 肛門</p> <p>3. 血液</p> <p>4. 体温とその調節</p>			
[教科書]			
岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学・第5版、医学書院			
[参考図書]			
<p>河田光博『シンプル解剖生理学』南江堂</p> <p>小澤澗司『標準生理学』医学書院</p>			
[授業方法]			
教科書, 配布資料, スライド			
[成績評価方法]			
1. 期末試験 2. 小テスト 3. 授業態度 4. 出席状況			

科目名	生 理 学 IV	学年・学期	2学年・後 期
担当講師	有川 幹彦	単位・時間数	1単位・30時間
[授業目標]			
<p>生理学Ⅲに引き続き、人体の正常な生理機能を学習することで環境適応の仕組みを理解し、主要な疾患の病態生理を概説できるようにする。生理学Ⅳでは、2年間の締めくくりとして、「心臓と循環」、「呼吸とガスの運搬」、「尿の生成と排泄」、および「体液調節」の4つをテーマに講義を行う。生理学Ⅲと同様に、解剖学や臨床系科目などと関連付けるよう促すことで、理解の充実と知識の定着を目指す。</p>			
[授業内容]			
1 心臓と循環			
1.1 血液			
1.2 心臓の構造と機能			
1.3 心拍出量の調節			
1.4 血圧と血管			
1.5 循環調節のしくみ（1）			
1.6 循環調節のしくみ（2）・心電図			
2 呼吸とガスの運搬			
2.1 肺の構造と機能			
2.2 ガス交換とガス分圧			
2.3 呼吸を調節するしくみ・肺機能検査			
3 尿の生成と排泄			
3.1 腎臓の構造と機能			
3.2 尿細管での再吸収と分泌（1）			
3.3 尿細管での再吸収と分泌（2）・排尿			
4 体液調節			
4.1 体液とその調節			
[教科書]			
岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野、生理学・第5版、医学書院、2018年			
[参考図書]			
貴邑富久子：シンプル生理学・改定第6版、南江堂、2008年			
坂井建雄：人体の正常構造と機能・改訂第2版、日本医事新報社、2012年			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 小テスト 3. 受講態度 4. 筆記試験			

科目名	運 動 学 Ⅲ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 本講義では、上肢（肩関節・肘関節・前腕・手関節・手）および上肢と体幹の運動における骨、関節、靭帯、筋の働きなどの基本事項について理解する。			
[授業内容] 1. 肩関節の関節運動と筋活動 2. 肘関節の関節運動と筋活動 3. 前腕の関節運動と筋活動 4. 手関節の関節運動と筋活動 5. 手の関節運動と筋活動 6. 体幹の運動と筋活動			
[教科書] 人間の運動学 協同医書出版 ※その他、関係プリント資料を随時配布			
[参考図書] 基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 図解 関節・運動器の機能解～上肢・脊柱編～ J・CASTAING 著 協同医書出版社 カパンディ 関節の生理学 医歯薬出版 カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 医歯薬出版株式会社			
[授業方法] 1. 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	運 動 学 IV	学年・学期	2学年・前期
担当講師	園田 義顕	単位数	1単位
[授業目標]			
<p>実践的な理学療法を行うための臨床思考について解説する。特に臨床場面で対処することが最も多くかつ人間にとって最も基本的な運動である「歩行機能」について学ぶ。また歩行の正常とそこから逸脱したものを学ぶことにより、その評価、治療における基礎をつくる。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 直立歩行とはなにか 2. 歩行に関する用語 3. 歩行周期と各相 4. 各歩行周期の特徴と役割（1） 5. 各歩行周期の特徴と役割（2） 6. 健常歩行の目安 7. 子ども、高齢者の健常歩行 8. 歩行の各相における各関節の機能（1） 9. 歩行の各相における各関節の機能（2） 10. 歩行の観察 11. 疾患別病的歩行 12. 異常歩行における各関節の逸脱運動（1） 13. 異常歩行における各関節の逸脱運動（2） 14. 歩行の神経制御機構 			
[教科書]			
人間の運動学 協同医書出版			
[参考図書]			
<p>観察による歩行分析 ゲッツ・ノイマン,キルステン著, 月城慶一 他訳 医学書院 基礎運動学 中村隆一・斎藤宏著 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー Donald A. Neumann 著, 嶋田智明 他訳 医歯薬出版 プリント等資料を随時配布</p>			
[授業方法]			
講義と実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト 3. 実習レポート			

科目名	リハビリテーション内科学	学年・学期	2学年・通年
担当講師	柿沼 由彦・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	医師として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 将来、理学療法士として医療に従事する際に必要な内部障害の病態生理学・症候学および各種疾患について理解する。			
[授業内容] 1. 循環器疾患 2. 呼吸器疾患 3. 消化器疾患 4. 肝胆膵疾患 5. 血液・造血器疾患 6. 代謝性疾患 7. 腎・泌尿器疾患 8. 膠原病、アレルギー疾患、免疫不全 9. 感染症候群 10. 皮膚疾患 11. 中毒、物理化学的要因による疾患			
[教科書] 標準理学療法学・作業療法学 「内科学」 医学書院			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 プリント			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	リハビリテーション整形外科学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	沖田 学・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>リハビリテーション医療において、運動器障害を正しく理解し、評価することは重要である。リハビリテーション整形外科学では、運動器に関する基本的理解と診断および治療について基本的事項を理解する。</p> <p>また、リハビリテーションの立場から整形外科疾患を呈する患者の治療を担うものとして各整形外科疾患の診断・病理・治療法など基本的知識を習得することを目的とする。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科の定義と整形外科を変えた運動 2. 関節と骨と疾患 3. 症候学と診断学 4. 手術療法と保存療法 5. 運動器の痛みと整形の理学療法診療ガイドライン 6. 上肢整形疾患の臨床と下肢整形疾患の臨床 7. 各種疾患の特徴・リハビリテーション① 8. 各種疾患の特徴・リハビリテーション② 9. 各種疾患の特徴・リハビリテーション③ 10. 頸椎疾患診察・検査 11. 頸椎疾患の特徴・リハビリテーション 12. 腰椎疾患診察・検査 13. 腰椎疾患の特徴 14. 腰椎疾患の特徴・リハビリテーション 15. テスト 			
[教科書]			
標準整形外科学 鳥巢岳彦 国分正一総編集 医学書院			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト			

科目名	リハビリテーション神経学	学年・学期	2学年・通年
担当講師	園田 義顕・田淵 充勇	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>運動の神経機構および機能の基本的理解をし、神経系疾患の病態解釈ができるようになることを目標とする。また、大脳皮質、辺縁系、基底核、小脳、脳幹、脊髄、末梢神経のシステムは運動のみならず言語や記憶をはじめとした高次脳機能の役割を担っており、それらの症状の理解が神経疾患をもつ患者をみるうえで重要となる。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経解剖 2. 神経所見のつかみ方 3. 画像の見方 4. 脳卒中の基礎 5. 虚血性脳血管障害 6. 出血性脳血管障害 7. 頭部外傷 8. リスク管理 9. 脳損傷後の機能回復のメカニズム 10. 運動関連領域の機能と随意運動 11. 運動関連領域の各論 12. 運動の調整機能（大脳基底核・小脳） 13. 運動学習のメカニズム 			
[教科書]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳卒中の画像のみかた 医学書院 2. 病気がみえる 脳・神経 MEDIC MEDIA 3. プリント等資料を随時配布 			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 スライド			
[成績評価方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. テスト 			

科目名	リハビリテーション栄養・薬理学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	小野 美紀・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>リハビリテーション栄養</p> <p>現代のリハビリテーションにおいて、予防、または回復において「栄養」状態の把握は必須である。特に、近年、リハビリテーションを実施する上で、栄養補給方法・嚥下調整食の必要性、栄養状態の把握が必要となり、それらの内容を学習する。</p> <p>リハビリテーション薬理学</p> <p>リハビリテーションの対象となる患者が服用している薬物について、その作用・副作用等、薬物の影響を理解することは重要である。薬理学・臨床薬理学の基本を学び、リハビリテーションを実施する上で、薬物の影響について学習する。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の基礎 2. リハビリテーションと栄養 3. 薬理の基礎 4. リハビリテーションと薬理 			
[教科書]			
関係プリント資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義、演習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. レポート 4. テスト			

科目名	救命救急医学・リスク管理学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	池田 武史・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
救命救急医学 救急患者の特殊病態を理解し、疾患と症状、必要な処置などの知識を習得し、将来、医療に携わる者として救急医療に参加出来るようになる。具体的な処置として、一次救命処置の基本となる人工呼吸法、心臓マッサージ等の実施方法を学習する。			
リスク管理学 医療者としてリスクマネジメントの必要性を学び、疾患や場面におけるインシデントやアクシデントを理解し、リスクマネジメントの実際と対応方法について学習する。			
[授業内容]			
救命救急医学 1. 急変対応理論 2. 一次救命措置・BSL(Basic Life Support)の基本と実際 3. 一次救命措置・BSL(Basic Life Support)の基本と実際			
リスク管理学 1. リスクマネジメントの目的 2. 疾患や場面におけるインシデント・アクシデント理解 3. リスクマネジメントの実際と対応 4. 感染症の管理について			
[教科書]			
プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義および実技			
[成績評価方法]			
1. 出席状況・授業態度 2. テスト			

科目名	精神医学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	川渕 忠義・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	作業療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>様々な精神現象の異常を理解することで精神障害に対する理解を深める。 また、各精神疾患の基本的知識を習得し、説明することが出来る。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医学の概念と歴史・我が国の精神保健の歴史（法律含む） 2. 精神症候学 3. 心理検査（精神作業能力検査・精神機能及び社会機能評価尺度・満足度評価など） 4. 脳器質性精神障害と症候性精神障害 5. 防衛機制と転移 6. 各論：認知症、てんかん・アルコール等薬物依存、感情障害、人格障害、睡眠障害、 摂食障害、神経症性障害、心身症、発達障害（MR・学習障害・広汎性発達障害）、 統合失調症 7. 治療（薬物療法を中心に） 			
[教科書]			
<p>標準理学療法学・作業療法学 「精神医学」 医学書院 配布資料</p>			
[参考図書]			
<p>「精神医学」 大月三郎 文光堂</p>			
[授業方法]			
<p>講義</p>			
[成績評価方法]			
<p>1. 出席状況 2. 筆記試験</p>			

科目名	老年病学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	明神 茉倫子	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 加齢による身体的・精神的変化について学び、高齢者に多くみられる疾患と病態生理、症候などについて理解していく。 さらに高齢者の栄養や予防医学についての理解も目的とする。			
[授業内容] 1. 老年医学総論 2. 高齢者に多い疾患—循環器— 3. 高齢者に多い疾患—呼吸器— 4. 高齢者に多い疾患—消化器— 5. 高齢者に多い疾患—腎・泌尿器— 6. 高齢者に多い疾患—内分泌・代謝— 7. 高齢者に多い疾患—神経系— 各項目において、癌、予防、栄養について講義			
[教科書] 標準理学療法学・作業療法学：老年学（医学書院）			
[参考図書]			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト（小テストを含む）			

科目名	生理学演習	学年・学期	2学年・前期																																																												
担当講師	村田 芳博	単位・時間数	1単位・30時間																																																												
<p>[授業目標]</p> <p>講義で学修する生理学の諸概念は、実験や観察に基づいて確立されてきたものである。本科目では、人間の生理応答を受講生自身が被検者および検者となって測定・観察することで、人体の正常な生理機能に対する理解を深めるとともに、臨床において患者の運動機能を分析する基礎を養う。</p>																																																															
<p>[授業内容]</p> <p>テーマ：運動機能</p> <table border="0"> <tr> <td>1. TBL</td> <td>生理学 I・II の復習</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. "</td> <td>筋電図：動作筋電図、誘発筋電図</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 実習</td> <td>筋電図測定 (A) 動作筋電図</td> <td>(1) 主働筋・拮抗筋の活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>" "</td> <td>(2) 筋力と筋電図の関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. "</td> <td>" "</td> <td>(3) 筋疲労と表面筋電図波形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>" "</td> <td>総合討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>" (B) 誘発筋電図</td> <td>(1) H波と M波の記録</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. "</td> <td>" "</td> <td>(2) H波の回復曲線</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. "</td> <td>" "</td> <td>(3) 筋肉の随意収縮に伴う H波の変化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. "</td> <td>" "</td> <td>(4) 運動神経線維の伝導速度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. "</td> <td>" "</td> <td>総合討論</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. "</td> <td>レポート作成</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. "</td> <td>"</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. "</td> <td>"</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>全体のまとめ、ピア評価 (相互評価)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1. TBL	生理学 I・II の復習			2. "	筋電図：動作筋電図、誘発筋電図			3. 実習	筋電図測定 (A) 動作筋電図	(1) 主働筋・拮抗筋の活動		4. "	" "	(2) 筋力と筋電図の関係		5. "	" "	(3) 筋疲労と表面筋電図波形		6. "	" "	総合討論		7. "	" (B) 誘発筋電図	(1) H波と M波の記録		8. "	" "	(2) H波の回復曲線		9. "	" "	(3) 筋肉の随意収縮に伴う H波の変化		10. "	" "	(4) 運動神経線維の伝導速度		11. "	" "	総合討論		12. "	レポート作成			13. "	"			14. "	"			15.	全体のまとめ、ピア評価 (相互評価)		
1. TBL	生理学 I・II の復習																																																														
2. "	筋電図：動作筋電図、誘発筋電図																																																														
3. 実習	筋電図測定 (A) 動作筋電図	(1) 主働筋・拮抗筋の活動																																																													
4. "	" "	(2) 筋力と筋電図の関係																																																													
5. "	" "	(3) 筋疲労と表面筋電図波形																																																													
6. "	" "	総合討論																																																													
7. "	" (B) 誘発筋電図	(1) H波と M波の記録																																																													
8. "	" "	(2) H波の回復曲線																																																													
9. "	" "	(3) 筋肉の随意収縮に伴う H波の変化																																																													
10. "	" "	(4) 運動神経線維の伝導速度																																																													
11. "	" "	総合討論																																																													
12. "	レポート作成																																																														
13. "	"																																																														
14. "	"																																																														
15.	全体のまとめ、ピア評価 (相互評価)																																																														
<p>[教科書]</p> <p>実習書を配布する。</p>																																																															
<p>[参考図書]</p> <ol style="list-style-type: none"> 岡田隆夫：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学第5版、医学書院、2018年 医療情報科学研究所：病気がみえる vol.7 脳・神経第2版、メディックメディア、2017年 本間研一：標準生理学第9版、医学書院、2019年 飛松省三：ここが知りたい！臨床神経生理、中外医学社、2016年 																																																															
<p>[授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> TBL(チーム基盤型学習) 実習：レポート作成を含む。 																																																															
<p>[成績評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> TBL 30% レポート 70% 																																																															

科目名	運動学演習	学年・学期	2学年・通年
担当講師	田淵 充勇・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>理学療法士は障害を有した患者の異常運動パターンについて多角的に分析を試みる必要があるが、なかでも運動学・運動力学的に分析し、問題点の抽出と治療計画を立てることは極めて重要なプロセスである。ここでは、目的的で定性的な運動・動作分析手法と共に運動学および運動力学面から定量的に解析するために必要な基礎的知識を身につける。特にその手法として、姿勢・バランス、筋活動、呼吸応答の解析方法について取り上げ、最終学年における臨床実習、卒業研究計画に結びつけるようにする。</p>			
[授業内容]			
<p>1. 姿勢・動作制御論</p> <p>①姿勢、基本的動作の理解</p> <p>②運動学的分析</p> <p>③運動力学的分析</p> <p>④動作分析実習</p> <p>2. 生体力学論</p> <p>⑤力学の用語と単位</p> <p>⑥体分節パラメータと力の数学的処理</p> <p>⑦数学公式から求められる力の大きさ</p>			
[教科書]			
<p>『人間の運動学』宮本省三・他（協同医書出版社）</p> <p>※プリント等資料を随時配布</p>			
[参考図書]			
<p>『基礎運動学』中村隆一、齋藤宏、長崎浩・著（医歯薬出版）</p> <p>『臨床運動学』中村隆一、齋藤宏・著（医歯薬出版）</p> <p>『観察による歩行分析』月城慶一、他・訳（医学書院）</p>			
[授業方法]			
講義，演習及び実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 演習，実習態度 3. レポート 4. テスト			

専門分野

目次

基礎理学療法学

理学療法基礎セミナー I 2 - ⑭

理学療法評価学

理学療法評価学Ⅳ 2 - ⑮

理学療法評価学Ⅴ 2 - ⑯

理学療法評価学演習 I 2 - ⑰

理学療法治療学

関節機能障害理学療法学 2 - ⑱

一般外傷理学療法学 2 - ⑲

スポーツ外傷理学療法学 2 - ⑳

末梢神経障害理学療法学 2 - ㉑

脊髄障害理学療法学 2 - ㉒

脳障害理学療法学Ⅰ 2 - ㉓

脳障害理学療法学Ⅱ 2 - ㉔

脳障害理学療法学Ⅲ 2 - ㉕

小児理学療法学 2 - ㉖

呼吸器障害理学療法学 2 - ㉗

循環器障害理学療法学 2 - ㉘

物理療法学 2 - ㉙

義肢学 2 - ㉚

装具学 2 - ㉛

日常生活動作学 2 - ㉜

運動療法技術学 2 - ㉝

認知神経リハビリテーション学 2 - ㉞

地域理学療法学

地域リハビリテーションⅠ 2 - ㉟

地域リハビリテーションⅡ 2 - ㊱

生活環境論 2 - ㊲

臨床実習

臨床評価実習Ⅰ 2 - ㊳

臨床評価実習Ⅱ 2 - ㊴

科目名	理学療法基礎セミナーⅠ	学年・学期	2学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 1年次に修得した理学療法基礎医学・臨床医学分野の解剖学、生理学、運動学、病理学等、復習を通して確実な知識とし、理解を深める。			
[授業内容] 筋肉学 運動学 骨学 関節学 内臓学 病理学 など			
[教科書] 生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理(第3版) 1年次に使用した関連教科書			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 実技 演習等			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 実技 3. 演習 4. レポート 5. テスト			

科目名	理学療法評価学Ⅳ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 理学療法評価学Ⅱでは、1年次の評価学Ⅰに引き続き、臨床において必要となる各種の検査・測定について講義する。主な評価項目は、失調・固縮・痙縮に対する運動機能検査、脳神経、片麻痺運動機能、協調性検査である。各評価に必要な学問背景を講義した後に、それぞれの手段の臨床における意義についての理解を促し、検査測定技術の習得を目標とする。			
[授業内容] 1. 中枢神経疾患の運動機能検査 2. 失調症の臨床症状と検査 3. 固縮の臨床症状と検査 4. 痙縮の臨床症状と検査 5. 脳神経検査 6. 協調性検査 7. 片麻痺運動機能検査 8. 各種検査のチャート 9. 各種検査の実際			
[教科書] 『リハビリテーション基礎評価学』（羊土社） 『ベッドサイドの神経の診かた』田崎義昭・斉藤佳雄著（南山堂） プリント等資料を随時配布			
[参考図書] 『理学療法評価学』松澤 正著（金原出版） 『標準理学療法学シリーズ：理学療法評価学』奈良 勲監修（医学書院） 『リハビリテーションにおける評価 ver.2』米本恭三編（医歯薬出版） プリント等資料を随時配布			
[授業方法] 講義および実技			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト（筆記、実技）			

科目名	理学療法評価学Ⅴ	学年・学期	2学年・後期
担当講師	田淵 充勇	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 理学療法評価学Ⅴでは、整形外科的検査の理解、および検査の実践を習得する。			
[授業内容] 1. 検査の信頼性の指標 2. 整形外科的検査（頸部、体幹） 3. 整形外科的検査（上肢） 4. 整形外科的検査（下肢）			
[教科書] 『リハビリテーション基礎評価学』 羊土社 『臨床実習とケーススタディ 第3版』 医学書院 *プリント等資料を随時配布			
[参考図書] 写真で学ぶ整形外科テスト法、病態動画から学ぶ臨床整形外科的テスト 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法			
[授業方法] 講義 演習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト（筆記、(実技)）			

科目名	理学療法評価学演習	学年・学期	2学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>①各種疾患に対する評価方法について理解し、その実践ができるようにする。</p> <p>②Paper Patient の作成を通じ、評価過程を整理する。</p>			
[授業内容]			
<p>①臨床技能能力試験(O S C E)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン ・形態計測 ・ROM ・MMT ・感覚 ・反射 ・筋緊張 ・バランス ・中枢疾患運動機能 ・協調性 ・脳神経 ・高次脳機能 ・整形外科疾患 ・動作分析他 <p>②疾患に対する評価過程の理解</p> <p>・疾患の選択→疾患概要の決定→評価項目の選定→評価結果の統合と解釈→問題点抽出→治療プログラム立案→考察</p> <p>※各過程における指導を含む</p>			
[教科書]			
<p>リハビリテーション基礎評価学 潮見 泰藏・下田 信明 編 (羊土社)</p> <p>新・徒手筋力検査法第10版 (協同医書出版社)</p> <p>ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭・斉藤佳雄著 (南山堂)</p> <p>『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディ』 鶴見隆正編 (医学書院)</p>			
[参考図書]			
[授業方法]			
<p>実技 演習 討議等</p>			
[成績評価方法]			
<p>1. 出席状況 2. O S C E 3. 演習 4. レポート</p>			

科目名	関節機能障害理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宮内 博雄・薦田 昭宏	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
<u>関節リウマチ（宮内）</u> [授業目標] 関節機能障害に関連深い関節リウマチについての治療におけるリハビリテーションの位置づけを理解させる。		<u>変形性関節症，他（薦田）</u> [授業目標] 臨床で多く経験する骨関節疾患（変形性関節症など）の定義に基づくリハビリテーションの位置づけを理解させる。	
[授業内容] 1. 関節リウマチの病態像 2. 関節リウマチの臨床症状 3. 関節リウマチの評価 4. 関節リウマチに対する治療 5. 関節リウマチの経過 6. 関節リウマチのリハビリテーション		[授業内容] 1. 変形性関節症（股関節・膝関節） 定義 疫学・病理 臨床所見 治療 2. その他の関節機能障害 骨折（大腿骨頸部・骨幹部など） 下肢関節機能障害	
[教科書] 教科書指定なし プリント等資料を随時配布		[教科書] 教科書指定なし プリント等資料を随時配布	
[参考図書] 標準整形外科学 鳥栖岳彦 国分正一編集 医学書院 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3巻・4巻 協同医書出版社 リハ実践テクニック 関節リウマチ 八木範彦・西林保朗 編集 メディカルレビュー社 筋骨格系のキネシオロジー 嶋田智明 監修 医歯薬出版			
[授業方法] 講義 実技 スライド			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	一般外傷理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>転倒や交通事故などの外傷における疾患やその病態を理解する。</p> <p>外傷後における骨折や靭帯などの回復機序を理解する。</p> <p>外傷後（特に骨折）の整形外科疾患に対する評価や理学療法の展開について理解する。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨折・靭帯損傷の定義と分類（総論） 2. 骨折および軟部組織の治癒過程 3. 外傷（骨折・他）後の機能障害 4. 各論（上肢，下肢，脊柱など） 5. 外傷後の整形外科疾患に対する理学療法評価 6. 外傷後の整形外科疾患に対する理学療法の展開 			
[教科書]			
<p>『こんなときどうする!?整形外科術後リハビリテーションのすすめかた』 山村恵、竹林庸雄・監修（医学書院）</p> <p>『標準整形外科学』鳥巢岳彦、国分正一・総編集（医学書院）</p> <p>※プリント資料を適宜配布</p>			
[参考図書]			
<p>『骨折の治療指針とリハビリテーション』酒井昭典、佐伯覚・編集（南江堂）</p> <p>『整形外科術後療法プログラム』島田洋一、高橋仁美・編集（メディカルビュー）</p> <p>『理学療法ハンドブック』細田多穂、柳澤健・編集（協同医書出版）</p> <p>『機能障害科学入門』千住秀明・監修（神陵文庫）</p> <p>『運動療法に役立つ 単純 X 線像の読み方』青木隆明・監修（メディカルビュー）</p>			
[授業方法]			
講義，演習，実習			
[成績評価方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. 授業、演習・実習態度 3. レポート 4. テスト 			

科目名	スポーツ外傷理学療法学	学年・学期	2学年・通年
担当講師	大久保 吏司・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>スポーツ外傷・障害に対する理学療法士の関わりは年々大きくなってきている。</p> <p>本授業では、主なスポーツ外傷・障害についていくつか取り上げ、それらの発生要因について、スポーツ動作との関連性を考察し、それに基づいた理学療法を概説する。</p> <p>また、病院・スポーツクリニックやスポーツ現場での理学療法士の活動についても紹介する。</p>			
[授業内容]			
1.	<ul style="list-style-type: none"> ・成長期における身体の特徴とスポーツ外傷・障害 ・体幹のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて ・頭頸部外傷について <p>(神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 大久保 吏司)</p>		
2.	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリートに対するフィジカル・マネジメントについて <p>～プロサッカー選手に対するトレーナー活動の紹介～</p> <p>(元ヴィッセル神戸 トレーナー 春日野会病院 リハビリテーション部 戒 健吾)</p>		
3.	<ul style="list-style-type: none"> ・下肢のスポーツ外傷・障害に対するスポーツ現場での評価・アプローチについて ・ユース年代に対するトレーナー活動の紹介 <p>(神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部 私立滝川第二高校サッカー部 トレーナー 瀧口 耕平)</p>		
4.	<ul style="list-style-type: none"> ・上肢のスポーツ外傷・障害に対する評価・アプローチについて <p>～解剖・評価・アスリートに対する障害の考え方、そしてアプローチの実際～</p> <p>(藤田整形外科スポーツクリニック 古川 裕之)</p>		
5.	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者スポーツのスポーツ外傷・障害について ・各障がい者へのスポーツ指導上の留意点と工夫 <p>～車椅子テニス、車椅子バスケット等について～</p> <p>(神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部 木田 晃弘)</p>		
[教科書] プリント等資料を随時配布			
[参考図書]			
小林寛和 編 : アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング 文光堂 2010			
陶山哲夫 監修 : スポーツ理学療法学 (第2版) メディカルビュー 2018			
山下敏彦 編集 : スポーツ傷害のリハビリテーション (第2版) 金原出版 2017			
[授業方法]			
講義および実技			
[成績評価方法]			
1. 出席・授業態度 2. テスト			

科目名	末梢神経障害理学療法学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	田淵 充勇・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 末梢神経障害の病態、臨床症状、回復機序およびそれぞれのリハビリテーションについて理解する。			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 末梢神経障害の病態2. 末梢神経麻痺の補助診断3. 末梢神経損傷に対する理学療法（評価）4. 末梢神経損傷に対する理学療法・装具療法（治療）5. 骨折による末梢神経損傷6. 末梢神経損傷各論（腕神経叢）7. 末梢神経損傷各論（上肢）8. 末梢神経損傷各論（下肢）9. 末梢神経損傷各論（自律神経）10. 末梢神経損傷各論（脳神経）			
[教科書] 関係プリント資料を随時配布			
[参考図書] 末梢神経障害 （メジカルビュー社） 理学療法ハンドブック 協同医書出版 標準整形外科学 鳥巢岳彦 国分正一総編集 医学書院			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. テスト			

科目名	脊髄障害理学療法学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	高橋 昭彦・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 脊髄損傷の臨床症状の理解 脊髄損傷の運動療法の理解 脊髄損傷の車椅子・装具・自助具・住環境の理解			
[授業内容] 1. 脊髄損傷とはどのような疾患か（脊髄損傷患者の残存機能と生活上の問題） 2. 脊髄損傷の評価（Zancolli） 3. 脊髄損傷の評価（ASIA） 4. 急性期の合併症とそのマネジメント 5. 慢性期の合併症とそのマネジメント 6. 呼吸器合併症と肺理学療法 7. 褥創管理と理学療法 8. 排尿管理と理学療法 9. 骨折・化骨管理と理学療法 10. 皮膚感染管理と理学療法 11. 脊髄損傷の床上動作 12. 脊髄損傷の車椅子上動作・歩行動作 13. 脊髄損傷の住環境 14. 脊髄損傷の公的扶助			
[教科書] 脊髄損傷リハビリテーションマニュアル 第3版 （医学書院）			
[参考図書] 脊髄損傷の理学療法 （医歯薬出版） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） 標準整形外科学 鳥巢岳彦 国分正一総編集 （医学書院）			
[授業方法] 講義・実技			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト 3. レポート			

科目名	脳障害理学療法学Ⅰ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
脳卒中片麻痺に対する理学療法評価の基本事項を理解する。			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経系の基本構造と機能特性 2. 高次脳機能障害の評価 3. 中枢性運動障害の評価 4. 片麻痺の合併症 			
[教科書]			
片麻痺 協同医書出版 資料配布			
[参考図書]			
脳卒中最前線 医歯薬出版 ベッドサイドの神経の診かた 田崎義昭 南山堂 理学療法ハンドブック 協同医書出版 リハビリテーションルネサンス 春秋社 脳単 NTS 脳のしくみ 新星出版社 脳卒中バイブル ちくま書房			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト			

科目名	脳障害理学療法学Ⅱ	学年・学期	2学年・後期
担当講師	明神 茉倫子	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 脳卒中片麻痺に対する理学療法の基本事項と臨床推論を理解する。			
[授業内容] 1. 高次脳機能障害とその評価と理学療法 2. 運動機能再教育（実技） 3. 急性期～慢性期の理学療法 4. 脳卒中のガイドライン			
[教科書] 片麻痺（協同医書出版）			
[参考図書] 脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで（医歯薬出版）			
[授業方法] 講義 実技			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	脳障害理学療法学Ⅲ	学年・学期	2学年・後期
担当講師	園田 義顕	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] Parkinson 病および運動失調症など神経内科系疾患の運動障害像・病理背景について理解し、評価と運動療法の基本原理と治療体系について解説する。また、運動療法を行う上で必要な運動・姿勢制御理論及び脳科学の基礎知見を参照し、中枢神経疾患に対するリハビリテーションの理論と実践を考える。			
[授業内容] 1. Parkinson 病の病態と障害像 2. Parkinson 病に対する理学療法評価と運動療法の実際 3. 運動失調症の病態と障害 4. 運動失調症に対する理学療法評価と運動療法 5. ALS の病態と理学療法 6. MS の病態と理学療法 7. GBS の病態と理学療法 8. 神経・筋疾患の病態と理学療法 9. 神経内科系疾患の病態と理学療法 10. ナラティブアプローチ			
[教科書] 標準理学療法学「神経理学療法学」 医学書院			
[参考図書] 「理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ」 中山書店 「神経局在診断」 Mathias Bahr, Michael Frotscher 著・花北順哉 訳 文光堂 「神経障害系理学療法学」 丸山仁司 編 医歯薬出版株式会社 「中枢神経系理学療法学」 柳澤健 編 メジカルビュー社 「病気が見える Vol.7 脳・神経」 メディックメディア プリント等資料を随時配布			
[授業方法] 講義			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. レポート 3. テスト			

科目名	小児理学療法学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	宮本 謙三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] <ol style="list-style-type: none">1. 発達期における理学療法の特異性を指摘することができる2. 姿勢反射の発達的变化と運動発達を関連づけて説明ができる3. 脳性麻痺を分類し、それぞれの特徴を説明することができる4. 類型ごとの理学療法の原則をあげることができる			
[授業内容] <ol style="list-style-type: none">1. 発達学概論（遺伝と環境／成熟と学習）2. 発達学概論（発達の原則／形態発達）3. 発達学概論（知的発達／発達理論）4. 発達学概論（運動発達／姿勢反射）5. 脳性麻痺概論（疫学・病型分類等）6. 脳性麻痺概論（合併症／治療の変遷）7. 脳性麻痺の理学療法評価8. 脳性麻痺の理学療法評価9. 脳性麻痺の医学的治療（手術療法・装具療法）10. 脳性麻痺の理学療法の実践（痙直型・アテトーゼ型）11. 二分脊椎症・ダウン症候群の理学療法12. 小児神経筋疾患（筋ジストロフィー）の理学療法13. 自閉症・学習障害・小児遺伝疾患14. 発達障害ビデオ視聴・練習問題15. テスト			
[教科書] <ol style="list-style-type: none">1. 小児理学療法テキスト 細田多穂 南江堂（2018 第3版）			
[参考図書] <ol style="list-style-type: none">1. 脳性麻痺の反射検査 M.R.Fiorentino 医歯薬出版			
[授業方法] 講義 実技（実習）			
[成績評価方法] <ol style="list-style-type: none">1. 出席状況2. テスト			

科目名	呼吸器障害理学療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宅間 豊	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 呼吸器系・心循環器系・筋代謝系の調和システムを基に慢性呼吸器疾患の障害構造を理解する。 そして、慢性呼吸器疾患に適用する理学療法評価法および治療と援助の専門的知識と技術を習得する。 1. 慢性呼吸器疾患の障害構造を理解できる 2. 慢性呼吸器疾患に対する理学療法評価の目的と方法を説明できる 3. 慢性呼吸器疾患に対する理学療法（治療、援助）の目的と方法を説明できる			
[授業内容] 1. 呼吸器系の構造と機能 1 2. 呼吸器系の構造と機能 2 3. 呼吸器系の構造と機能 3 4. 呼吸器系の構造と機能 4 5. 呼吸機能障害の評価 1 6. 呼吸機能障害の評価 2 7. 呼吸機能障害の評価 3 8. 呼吸機能障害の評価 4 9. 呼吸理学療法 1 10. 呼吸理学療法 2 11. 呼吸理学療法 3 12. 呼吸理学療法 4 13. 呼吸理学療法 5 14. 呼吸理学療法 6 15. 定期試験			
[教科書] 1. 動画でわかる呼吸リハビリテーション第5版 高橋仁美・宮川哲夫・他 編（中山書店） 2. プリントを随時配布			
[参考図書] 1. リハ実践テクニック呼吸ケア第4版 塩谷隆信・高橋仁美 編 メジカルビュー社 2011 2. 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 第2版 石川朗・玉木彰 編 中山書店 2010			
[授業方法] 講義 実技 パワーポイント 動画			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト			

科目名	物理療法学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
電気療法について理解する。 低周波，高周波，超音波，光線療法について理解する。 各種器具の実施が可能となる。			
[授業内容]			
1. 治療的電気刺激療法 2. 経皮的末梢神経電気刺激療法 3. 干渉波電気刺激療法 4. 機能的電気刺激療法 5. 電気診断 6. 超短波・極超短波療法 7. 超音波療法 8. 光線療法 9. 筋電図バイオフィードバック療法 10. 各種実習			
[教科書]			
『物理療法 第2版』千住秀明・監修、沖田実・編集（神陵文庫）			
[参考図書]			
『理学療法ハンドブック 第2巻治療アプローチ』細田多穂・他編（協同医書出版社） 『EBM 物理療法 原著第2版』Michelle H. Cameron・編著、渡部一郎・監訳（医歯薬出版株式会社） 『理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック』木村貞治・編集（文光堂） 『最新物理療法の臨床適応』庄本康治・著（文光堂） 『コンディショニング・ケアのための物理療法実践マニュアル』川口浩太郎・著（文光堂） 『機能障害科学入門』千住秀明・監修（神陵文庫）			
[授業方法]			
講義 演習 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト 3. 授業、演習・実習態度 4. レポート			

科目名	義肢学	学年・学期	2学年・通年
担当講師	鶴見 隆正	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 義肢は、四肢を切断された人にとって、歩行やADLを再び円滑に遂行する上で不可欠なものである。切断者のリハビリテーションにおける理学療法の位置付けと理学療法士の役割を理解し、義肢の種類、構造、適合判定、力学的理論と義肢操作の実際について基本的な知識と技術を学習する。また切断者の理学療法評価と義肢装着訓練については演習的に展開する。			
[授業内容] 1. 切断のリハビリテーション・理学療法士の役割 2. 義肢の歴史、切断原因と切断手技 3. 術後の断端管理と理学療法 4. 大腿義足ソケット分類、ソケット適合 5. 大腿義足のアライメント理論、調整法の実技 6. 膝継手の機能と適応、アライメント調整 7. 足継手の機能と適応、アライメント調整 8. 下腿切断原因、ソケット分類 9. 下腿ソケットの形状と機能 10. 膝離断と膝義足、サイム切断 11. 股関節離断とカナダ式股義足 12. 両側下肢切断の義足と理学療法 13. 下肢切断の評価 14. 下肢切断の評価実習 15. 下肢切断の理学療法プログラムと実習			
[教科書] 義肢装具のチェックポイント 第9版 医学書院 臨床実習とケーススタディ 医学書院			
[参考図書] 切断と義肢 沢村 誠志 医歯薬出版			
[授業方法] 講義では、義肢のハード面、切断の理学療法についてスライド、資料を用いて解説し、一部は演習形式と断端評価等について実習を行う。			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. テスト 3. 演習発表			

科目名	装 具 学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	岡上 正弘	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>装具療法において、使用目的・使用方法など装具に関する一般的基礎知識を習得する。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 下肢装具 <ol style="list-style-type: none"> 1) 金属支柱付長・短下肢装具 2) プラスチック短下肢装具 3) 膝装具 4) 免荷装具 5) 靴型装具 6) その他 2. 体幹装具 <ol style="list-style-type: none"> 1) 頸椎装具 2) 胸腰仙椎装具 3) 腰椎装具 4) 側彎症装具 3. 上肢装具 			
[教科書]			
義肢装具のチェックポイント（第9版） 医学書院			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 定期試験			

科目名	日常生活動作学	学年・学期	2学年・前期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<ul style="list-style-type: none">日常生活動作（ADL）の基本的事項および障害とADLの理解、評価方法を理解させる。ADLにおける移動補助具（杖・松葉杖・歩行器・車椅子）の基本的事項および対象疾患について解説し、理解させる。該当項目終了後には、医療施設にて見学及び体験実習。基本姿勢と動作の基本的理解および正常発達について理解させる。			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none">ADL評価について歩行補助具（実技実習）車椅子（基本的事項）車椅子（疾患別特徴）車椅子（実技実習）基本姿勢体位変換と移動動作			
[教科書]			
日常生活動作学・生活環境学 新版 姿勢と動作		医学書院 メヂカルフレンド社	
[参考図書]			
車いす・シーティング 移動補助具 実習 ADL/APDL		はる書房 金原出版 協同医書出版	
[授業方法]			
講義 実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 実習態度 3. レポート 4. テスト			

科目名	運動療法技術学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 運動療法の実践には各疾患に応じた多くの技術を要する。 本講では、演習・実技を通して、運動療法実践に必要な基本的な知識・技術を習得する。			
[授業内容] 1. 筋機能低下に対する運動療法 2. 関節可動域障害に対する運動療法 3. 姿勢・動作に対する運動療法 4. 疼痛に対する運動療法			
[教科書] 『あたらしい人体解剖学アトラス』P.タンク著 (MEDSi) 『新・徒手筋力検査法第10版』Dale Avers, Marybeth Brown 著 (協同医書出版社)			
[参考図書] 『Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて』日高正巳・監訳 (医歯薬出版) 『図解 運動療法ガイド』内山靖、奈良勲・編集 (文光堂) 『骨格筋の形と触察法』河上敬介、磯貝香・編集 (大峰閣) 『ボディ・ナビゲーション』Andrew Biel・著 阪本桂造・訳 (医道の日本社) 『ID ストレッチング』鈴木重行・編編 (三輪書店) 他			
[授業方法] 講義、演習、実技			
[成績評価方法] 1. テスト 2. 出席状況 3. 授業、演習・実技態度 4. レポート			

科目名	認知神経リハビリテーション学	学年・学期	2学年・後期
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 脳科学の進歩状況について理解する。 認知神経リハビリテーションの理論について理解する。 認知神経リハビリテーションの基本技術を習得する。			
[授業内容] 1. 認知神経科学の基礎 2. 身体哲学 3. 認知心理学 4. 運動学習理論 5. 運動機能回復理論 6. 認知理論 7. 認知神経リハビリテーションの実際			
[教科書] 認知神経リハビリテーション入門 協同医書出版			
[参考図書] 認知運動療法と道具 協同医書出版 認知運動療法 運動機能再教育のパラダイム 協同医書出版 認知運動療法入門 宮本省三・沖田一彦編 協同医書出版 認知運動療法 Perfetti・宮本省三・沖田一彦著 協同医書出版 子どもの発達と認知運動療法 Puccini 著 協同医書出版			
[授業方法] 講義 実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. レポート			

科目名	地域リハビリテーション学Ⅰ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	佐藤 健三	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 地域リハビリテーションについての理解を深めていただきたい 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割についての理解を深めていただきたい。 在宅障害高齢者の生活機能障害についての理解を深めていただきたい。 在宅障害高齢者の生活環境支援についての理解を深めていただきたい。			
[授業内容] 1. 地域リハビリテーション概論（講義） 2. 地域リハビリテーションの現状と課題（講義） 3. 生活機能障害の評価、問題・課題の抽出、目標設定について（講義・演習）。 4. 生活環境支援（グループワーク）			
[教科書] 教科書指定なし プリント等資料を随時配布			
[参考図書] 日常生活活動学・生活環境学 （医学書院） 地域理学療法学 （医学書院） 高齢者を知る事典 （厚生科学研究所） 訪問リハビリテーション実践テキスト （青海社）			
[授業方法] 講義 グループワーク 演習			
[成績評価方法] 1.出席状況 2.テスト			

科目名	地域リハビリテーション学Ⅱ	学年・学期	2学年・通年
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>高齢者の身体機能・精神機能および高齢者に多い疾患について理解し、高齢者に対するリハビリテーションあり方について学ぶ。あわせて、介護保険制度を理解し、介護老人保健施設・通所リハビリテーション、高齢者福祉施設等の見学等を通して、高齢者がどのように地域で生活できるような社会体制になっているのかを把握し、理解を深める。</p> <p>高齢者および障害者を取り巻く生活環境や余暇活動(スポーツなど)を理解し、介護予防など理学療法士としての役割について学ぶ。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化の基本 2. 高齢者の身体機能・精神機能の変化 3. 老年症候群の概説 4. 高齢者のリハビリテーション 5. 介護保険を中心とした高齢者に関する保険制度の理解 6. 老人保健施設等、高齢者福祉施設の見学実習 7. 高齢者および障害者を取り巻く生活環境と余暇活動(スポーツなど)の理解 8. 高齢者および障害者の介護予防・余暇活動(スポーツ)体験 			
[教科書]			
資料配布			
[参考図書]			
『標準理学療法学・作業療法学：老年学』奈良 勲・鎌倉矩子監修 (医学書院)			
老人のリハビリテーション		医学書院	
老年医学テキスト		メジカルビュー社	
地域リハビリテーションマニュアル		三輪書店	
エピソードでつかむ老年心理学		ミネルヴァ書房	
[授業方法]			
講義 施設見学実習 高齢者・障害者の余暇活動体験実習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト(小テストを含む) 3. 各種実習態度 4. 課題レポート内容			

科目名	生活環境論	学年・学期	2学年・後期
担当講師	小野 美紀	単位・時間数	1単位・30時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 疾患別障害像を理解し、日常生活動作（ADL）の特徴および生活環境について理解し、ADL指導の実際について学習する。			
[授業内容] 1. 疾患別ADLについて ・疾患・機能障害の概要 ・ADLの特徴 ・生活環境の理解 ・ADL指導の実際 ① 脳卒中片麻痺 ② 脊髄損傷 ③ 骨関節疾患 ④ その他の疾患 2. 疾患別住宅改修について			
[教科書] 日常生活動作学・生活環境学 医学書院			
[参考図書] リハビリテーション・ADL トレーニング 医歯薬出版 ADL とその周辺 医学書院 脊髄損傷マニュアル 医学書院 動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 医学書院 新版 姿勢と動作 メヂカルフレンド			
[授業方法] 講義 実習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 授業態度 3. レポート 4. テスト			

科目名	臨床評価実習Ⅰ	学年・学期	2学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
医療施設における理学療法過程の基本的理解・疾患別の検査・測定 臨床における理学療法の理解			
[授業内容]			
1. 実習開始前に学内でのオリエンテーション			
2. 学院指定の実習施設での理学療法部門の見学 診療参加型実習による理学療法全般の理解 障害像の把握(多様な疾患) 理学療法評価の実践			
3. 提出書類の作成			
4. 学内での実習終了報告会			
[成績評価方法]			
評価実習提出書類並び実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)を元に、 学内で評価実習単位認定会議を開催し単位認定とする。			

科目名	臨床評価実習Ⅱ	学年・学期	2学年・後期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	2単位・90時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>理学療法評価過程の理解および実践と理学療法の実践 臨床における理学療法の理解</p>			
[授業方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価実習前評価 基礎・専門基礎・専門分野の知識確認テスト 臨床技能能力試験(O S C E) →結果のフィードバック・指導 2. 実習開始前に学内でのオリエンテーション 3. 学院指定の実習施設での診療参加型実習 障害像の把握(多様な疾患) 患者の状態等に関する評価 理学療法実践 4. 提出書類の作成 5. 学内での実習終了報告会 ポートフォリオ報告 6. 臨床実習終了後評価 基礎・専門基礎・専門分野の知識確認テスト 臨床技能能力試験(O S C E) →結果のフィードバック・指導 			
[成績評価方法]			
<p>評価実習前後評価並びに臨床体験報告書・ポートフォリオ、出席状況、 実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)を元に、 学内で評価実習単位認定会議を開催し単位認定とする。</p>			

3 学年 授業科目要綱

令和4年度 3学年・授業科目・単位数・担当者一覧

3年生

分野 指定規則単位	科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基礎	身体哲学概論	1	15	1					宮本 省三	専任講師	
		脳科学概論	1	15		1				明神 茉倫子	専任講師	
		スポーツ科学概論	1	15	1					宮本 省三・他	専任講師・他	
		医学用語	1	15	1					小野 美紀	専任講師	
		医学英語	1	15		1				小野 美紀	専任講師	
		情報科学演習	1	30	1					大畑 剛・他	非常勤講師	
	人間と生活	発達心理学	1	15		1				宮本 省三・他	専任講師・他	
		運動心理学	1	15	1					宮本 省三・他	専任講師・他	
		人間発達学	1	15		1				山口 一郎	非常勤講師	
		日常生活動作概論	1	15		1				小野 美紀・他	専任講師・他	
		保健体育	1	30		1				刈谷 三郎	非常勤講師	
	社会の理解	社会福祉学	1	15	1					稲垣 佳代	非常勤講師	
		コミュニケーション概論	1	15	1					小野 美紀・他	専任講師・他	
		社会活動概論	1	15	1					園田 義顕・他	専任講師・他	
計	14	14	240	8	6	0	0	0	0			
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	1	30		1				由利 和也	非常勤講師
			解剖学Ⅱ	1	30		1				高橋 弘	非常勤講師
			解剖学Ⅲ	1	30	1					田中 健二郎	非常勤講師
			解剖学Ⅳ	1	30	1					由利 和也	非常勤講師
		生理学	生理学Ⅰ	1	30	1					有川 幹彦	非常勤講師
			生理学Ⅱ	1	30		1				村田 芳博	非常勤講師
			生理学Ⅲ	1	30			1			大塚 智子	非常勤講師
			生理学Ⅳ	1	30				1		有川 幹彦	非常勤講師
		運動学	運動学Ⅰ	1	30	1					園田 義顕	専任講師
			運動学Ⅱ	1	30		1				宮本 省三	専任講師
			運動学Ⅲ	1	30			1			宮本 省三	専任講師
			運動学Ⅳ	1	30			1			園田 義顕	専任講師
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学概論	1	30		1				山本 由美子・他	非常勤講師	
		リハビリテーション内科学	1	30				1		柿沼 由彦・他	専任講師・他	
		リハビリテーション整形外科	1	30			1			沖田 学・他	非常勤講師	
		リハビリテーション神経学	1	45				1		園田 義顕・田淵 充勇	専任講師	
		リハビリテーション栄養・薬理学	1	15			1			小野 美紀・他	専任講師・他	
		救命救急医学・リスク管理学	1	15				1		池田 武史・他	非常勤講師	
		臨床データ診断学	1	15					1	八坂 一彦	専任講師	
		精神医学	1	30				1		川淵 忠義・他	非常勤講師	
		老年病学	1	30			1			明神 茉倫子	専任講師	
		運動発達学	1	15	1					宮本 省三	専任講師	
		解剖学演習	1	30	1					明神 茉倫子	専任講師	
		生理学演習	1	30				1		村田 芳博	非常勤講師	
		解剖生理学演習	1	30		1				明神 茉倫子	専任講師	
		運動学演習	1	30				1		田淵 充勇・他	専任講師・他	
		保健医療福祉とリハビリの理念	リハビリテーション概論	1	30	1					八坂 一彦	専任講師
			リハビリテーション医学	1	30		1				宮本 省三	専任講師
			社会保障論	1	15					1	明神 茉倫子	専任講師
			チーム医療概論	1	15	1					八坂 一彦・他	専任講師・他
計	30	30	825	8	7	6	7	0	2			

分野 指定規則単位	科目	単位	時間	1学年		2学年		3学年		担当講師	備考
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法評価概論	1	30	1					明神 茉倫子	専任講師
		運動療法概論	1	45		1				田淵 充勇	専任講師
		物理療法概論	1	30		1				八坂 一彦	専任講師
		理学療法基礎セミナーⅠ	1	30				1		宮本 省三・他	専任講師
		理学療法基礎セミナーⅡ	1	45					1	宮本 省三・他	専任講師
		理学療法基礎セミナーⅢ	1	45					1	宮本 省三・他	専任講師
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30		1				田淵 充勇	専任講師
		理学療法評価学Ⅱ	1	45		1				宮本 省三	専任講師
		理学療法評価学Ⅲ	1	30		1				園田 義顕	専任講師
		理学療法評価学Ⅳ	1	30			1			園田 義顕	専任講師
		理学療法評価学Ⅴ	1	30				1		田淵 充勇	専任講師
		理学療法評価学演習	1	30				1		宮本 省三・他	専任講師
	理学療法	理学療法管理学	1	15					1	大畑 剛・他	非常勤講師
		理学療法教育学	1	15					1	小野 美紀	専任講師
	理学療法治療学	関節機能障害理学療法学	1	30			1			宮内 博雄・藤田 昭宏	非常勤講師
		一般外傷理学療法学	1	30			1			八坂 一彦	専任講師
		スポーツ外傷理学療法学	1	30				1		大久保 史司・古川 裕之	非常勤講師
		障害者スポーツ学	1	30		1				八坂 一彦・他	専任講師・他
		末梢神経障害理学療法学	1	30				1		田淵 充勇・他	専任講師
		脊髄障害理学療法学	1	30				1		高橋 昭彦・他	非常勤講師
		脳障害理学療法学Ⅰ	1	30			1			宮本 省三	専任講師
		脳障害理学療法学Ⅱ	1	30				1		明神 茉倫子	専任講師
		脳障害理学療法学Ⅲ	1	30				1		園田 義顕	専任講師
		小児理学療法学	1	30				1		宮本 謙三	非常勤講師
		呼吸器障害理学療法学	1	30			1			宅間 豊	非常勤講師
		循環器障害理学療法学	1	30			1			前田 秀博	非常勤講師
		物理療法学	1	30			1			八坂 一彦	専任講師
		義肢学	1	30				1		鶴見 隆正	非常勤講師
		装具学	1	30			1			岡上 正弘	非常勤講師
		日常生活動作学	1	30			1			小野 美紀	専任講師
		運動療法技術学	1	30				1		八坂 一彦	専任講師
		認知神経リハビリテーション学	1	30				1		宮本 省三・他	専任講師
	理学療法治療学セミナー	1	45					1	宮本 省三・他	専任講師	
理学療法研究法	1	30					1	宮本 省三・他	専任講師		
地域理学療法学	地域リハビリテーション学Ⅰ	1	30			1			佐藤 健三	非常勤講師	
	地域リハビリテーション学Ⅱ	1	30				1		小野 美紀	専任講師	
	生活環境論	1	30				1		小野 美紀	専任講師	
臨床実習	臨床見学実習	1	45		1				宮本 省三	専任講師	
	臨床評価実習Ⅰ	1	45				1		宮本 省三	専任講師	
	臨床評価実習Ⅱ	2	90				2		宮本 省三	専任講師	
	総合臨床実習	15	675					15	宮本 省三	専任講師	
	地域見学実習	1	45					1	宮本 省三	専任講師	
計	57	57	2055	1	7	10	17	15	7		
合計	101	101	3120	17	20	16	24	15	9		
3120時間				37単位		40単位		24単位			
				945時間		1230時間		945時間			
				101単位 3120時間							

専門基礎分野

目次

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

臨床データ診断学 3-①

保健医療福祉とリハビリテーションの理念

社会保障論 3-②

科目名	臨床データ診断学	学年・学期	3学年・通年
担当講師	八坂 一彦	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<ul style="list-style-type: none"> ○各種検査データを読み取れるようになること。 ○各種検査データから、病態の理解やリスク管理、治療プログラム立案など、理学療法に 応用できるようになること。 			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学検査 2. 血液ガス検査 3. 呼吸機能検査 4. 循環機能検査 他 			
[教科書]			
※プリント資料を適宜配布			
[参考図書]			
病気がみえるシリーズ			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. 授業、演習態度 3. レポート			

科目名	社会保障論	学年・学期	3学年・後期
担当講師	明神 茉倫子	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>ノーマライゼーションを理解する。</p> <p>リハビリテーションに関連する法制度を理解する。</p>			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者自立生活運動 2. ノーマライゼーション 3. クリニカルパス 4. 根拠に基づく医療 5. ICD、ICIDH、ICF 6. 介護保険法 7. 老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律 8. 医療法、個人情報保護に関する法律 9. 理学療法士及び作業療法士法 10. 障害者基本法、身体障害者福祉法 11. 知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 12. 発達障害者支援法、児童福祉法 13. 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 14. 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律 			
[教科書]			
配布資料			
[参考図書]			
<p>医療六法（中央法規）</p> <p>医事関連法の完全知識（医学通信社）</p>			
[授業方法]			
講義			
[成績評価方法]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. テスト 			

専門分野

基礎理学療法学

理学療法基礎セミナーⅡ . . . 3-③

理学療法基礎セミナーⅢ . . . 3-④

理学療法管理学

理学療法管理学 . . . 3-⑤

理学療法教育学 . . . 3-⑥

理学療法治療学

理学療法治療学セミナー . . . 3-⑦

理学療法研究法 . . . 3-⑧

臨床実習

総合臨床実習 . . . 3-⑨

地域見学実習 . . . 3-⑩

科目名	理学療法基礎セミナーⅡ	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 理学療法士国家試験に対応するために、これまでに履修した知識・技術【理学療法専門基礎分野〔基礎医学・臨床医学〕および理学療法専門分野】について理解する。			
[授業内容] 1. 理学療法専門基礎分野および理学療法専門分野の出題傾向の理解ならびに対策 2. 講義、演習、グループワークを実施し、知識の再確認および補充 3. 学習計画を立案し、到達目標を設定 4. 学習習慣の徹底と学習方法の確立 5. 教員による定期的な面接および進捗状況の確認			
[教科書] 教科書指定なし			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 演習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 課題提出			

科目名	理学療法基礎セミナーⅢ	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
理学療法士国家試験に対応するために、これまでに履修した知識・技術【理学療法専門基礎分野〔基礎医学・臨床医学〕および理学療法専門分野】について、各種試験を通して理解する。			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法士国家試験模擬試験 2. 理学療法士国家試験過去問題演習 3. 理学療法士国家試験過去問題類似問題演習 4. 試験結果および演習状況の確認 			
[教科書]			
教科書指定なし			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. テスト			

科目名	理学療法管理学	学年・学期	3学年・後期
担当講師	大畑 剛・他	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
理学療法士の管理業務を知り、日々の診療業務を安全かつ効率的に行える人材を育成することを目標とする。			
[授業内容]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 総論・職業倫理と組織運営マネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・組織とは ・病院組織と管理 ・医療安全管理への取り組み ・リスクマネジメントの実際 2 理学療法士の職場管理 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの管理 ・人材育成 ・モノ（設備）の管理 ・情報管理 3 理学療法業務のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法業務 ・診療録 ・処方せん ・理学療法記録 ・説明と同意、計画書 ・チーム医療 4 保険制度を取り巻く諸制度とマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・診療報酬制度 ・介護報酬制度 ・その他の制度 ・リハビリテーションを取り巻く社会情勢 5 教育研究のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法教育（卒前教育、卒後教育） ・臨床実習指導者制度 ・研究活動について 6 求められている理学療法士になるために <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の育成 ・就職活動について 7 在宅部門のマネジメント（訪問リハ） 大畑 千加恵 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険下におけるマネジメント ・在宅部門での職場管理 ・生活期における理学療法マネジメント 			
[教科書]			
資料配付			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. レポート			

科目名	理学療法教育学	学年・学期	3学年・後期
担当講師	小野 美紀・八坂 一彦	単位・時間数	1単位・15時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>医療専門職である理学療法士の卒業までの教育内容および理学療法士を取り巻く現状について理解する。</p> <p>また、卒前に学んだ知識と技術を、臨床でより良く生かすための臨床能力とプロフェッショナリズムについて理解を深め、資格取得後の卒後教育(キャリア教育)や生涯学習システムについて学ぶ。</p>			
[授業内容]			
【卒前教育】担当・小野			
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士教育の変遷および理学療法士を取り巻く現状 ・理学療法学モデル・コア・カリキュラム ・卒前教育における臨床実習の位置づけ 			
【卒後教育】担当・八坂			
<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得後の卒後教育(キャリア教育) ・日本理学療法士協会における生涯学習システム 			
[教科書]			
教科書指定なし 資料配布			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 演習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. レポート			

科目名	理学療法治療学セミナー	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
[前期] 総合臨床実習に備え、理学療法実技（評価・治療）について理解する			
[後期] 理学療法士の職域、キャリアについて理解する 理学療法のトピックスについて理解する			
[授業内容]			
[前期] 総合臨床実習に向けた理学療法実技（評価・治療）に関連する知識・技術の復習			
[後期] 理学療法士の職域、キャリアに関する特別講義 理学療法トピックスをテーマとする特別講義			
[教科書]			
各授業内容に応じ、各担当教官より指定あり			
[参考図書]			
[授業方法]			
講義 実技 演習			
[成績評価方法]			
1. 出席状況 2. レポート			

科目名	理学療法研究法	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三・他	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標] 理学療法研究法では、テーマに沿った文献を適切に読み解く能力を身につける。 また、研究の実際には、理学療法全般に関して、各自が研究テーマを設定し、研究計画を立て、文献研究を通して、理学療法研究抄録を作成する。			
[授業内容] 1. 研究とは 2. 研究テーマ設定 3. 研究計画書作成 4. 研究計画書に従い、研究の実施 5. 結果の整理 6. 抄録形式にまとめる 7. 発表			
[教科書] 教科書指定なし 各自テーマに応じ、必要な資料			
[参考図書]			
[授業方法] 講義 演習			
[成績評価方法] 1. 出席状況 2. 理学療法研究抄録内容 3. 発表			

科目名	総合臨床実習	学年・学期	3学年・前期
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	15単位・675時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標・内容]			
<p>1 学年・2 学年で習得した基礎・専門基礎・専門分野の知識を応用し、臨床場面で指導を受けながら、見学および実践する。</p> <p>1. 実習施設における理学療法士の役割を理解する 2. 理学療法評価および実践について理解する 3. 専門職としての自覚を高め、各種体験を積極的に取り組む</p>			
[授業方法]			
<p>1. 総合臨床実習前評価 基礎・専門基礎・専門分野の知識確認テスト 臨床技能能力試験(O S C E) →結果のフィードバック・指導</p> <p>2. 実習開始前に学内でのオリエンテーション</p> <p>3. 学院指定の実習施設での診療参加型実習〔1施設8週間として、2施設で実施する〕 患者の障害像の把握(多様な疾患) 治療目標及び治療計画の立案 治療実践並びに治療効果判定</p> <p>4. 提出書類の作成</p> <p>5. 学内での実習終了報告会</p> <p>6. 臨床実習終了後評価 基礎・専門基礎・専門分野の知識確認テスト 臨床技能能力試験(O S C E) →結果のフィードバック・指導</p>			
[成績評価方法]			
<p>臨床実習前後評価並びに総合臨床実習経験表・総合臨床実習到達度評価表、出席状況、実習内容状況(臨床実習指導者と教員による状況確認)を元に、学内で総合臨床実習単位認定会議を開催し単位認定とする。</p>			

科目名	地域見学実習	学年・学期	3学年・通年
担当講師	宮本 省三	単位・時間数	1単位・45時間
実務経験者の概要	理学療法士として、医療機関での実務経験があり、その経験を生かした講義内容としている。		
[授業目標]			
<p>高齢者リハビリテーション、訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーションにおける理学療法士の役割について、実習を通して理解する。</p>			
[授業内容]			
<p>高齢者リハビリテーション、訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション施設において見学実習</p>			
[授業方法]			
<p>学院指定の実習施設での見学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設への学生配置 2. 実習学生プロフィールの作成 3. 実習開始前に学内でのオリエンテーション 4. 医療施設での実習 5. 実習内容および提示課題についてグループワーク 6. 課題および報告書提出 			
[成績評価方法]			
<p>1. 出席 2. 実習態度 3. 課題提出 4. 報告書提出</p>			

高知医療学院 理学療法学科

〒781-0270 高知市長浜6012-10

TEL 088-842-0412

FAX 088-841-1783

<https://www.kochi-iryogakuin.com>

